

羣書一覽

五

類題
歌學
教訓

雜類
詩文
釋書

撰冊
醫書
管行

內閣文庫	
番號	和 8949
冊數	6 (5)
函號	261 14



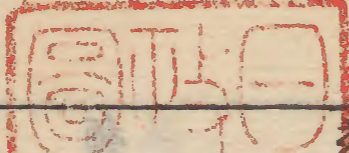
群書一覽卷之五

類題類

類題和歌集

三十一卷

此書字ヤ、勅撰類題和歌集といひ、全部十六卷より列す
 八第一卷より第五卷まで春部、第六卷より第八卷まで夏部、第九
 卷より第十三卷まで秋部、第十四卷より第十六卷まで冬部、第十
 七卷より第二十二卷まで恋部、第二十三卷より第三十卷まで雜
 部、外に公事部一卷附し、物計三十一卷よりす。○は水尾沈菴
 年中諸臣の勅撰、今古和歌類抄の纂録を以て、これに号し
 たり。今これに載せられたる書中の歌の撰者、秋は千七百餘、今これに
 載せられたる書中の歌の撰者、秋は千七百餘、今これに載せられたる



群書一覽

和書部五

此去のゆゑの草紙のむらじ紙魚肥えん...
 うく坂以恒憤起...
 約九の真字の序...
 序等...
 集ハ今古...
 計二百巻...
 別部...
 と入作者自誇...
 て小題...
 用書目五百十九部の中...
 又慈眼大師...
 十人百首...
 年着...
 至の類 陽光院五十首...

四部 歌合類 山家濯川歌合より近...
 百四十部 家集類 日多の院所集...
 小... 百三部 法中集 守覚...
 草... 二十五部...
 今存...
 九例八則...

類題落穂集 写本 四巻

勅撰類... 題の... 奉り...
 此書ハ... 考...
 新類題落穂集 写本 四巻

新撰... 勅撰...
 勅撰... の...



残林拾葉集

写本

一卷

この作者ハ山本紀内源道春と云々○元禄十二年季秋並河良弼傳良父真字の跋云々残林拾葉ハ予友山山本君の所蔵すといふなり凡和歌二千二百餘首内約著題の中ハ最難きものなり 後水尾帝嘗て當時の名卿又勅して廣く著題ハ名歌枚採各門ノ部撰えりハ中惟其題存一と云ハ故撰題のもの公卿又勅一と云ハ故撰題の補入ハ後書近室中ハ著題類題和歌集一賜一唯二三近臣の家ノ修く民間よりと云ハ其ものねり 水戸侯君の考丹本子ノ令一重相日野公ノ語く其書ハ勝字ナリハ君の家あるの書ハ君の所蔵と云ハ君固ハ故撰好むと云ハ別よりハ故撰と云ハ故撰とのねり一と云ハ一冊一丁蓋りの部と實ナリと云ハ

明題和歌全集

十五卷

今川了俊の作なり古字ハ六卷なりハ二八明題と号す古今集以ハ十六代の集撰の所より採用ハる也ハ其部撰一と云ハ二八の部と号す一と云ハ今刊ハ八十五卷ニ分ちて雜の部乃下ニ短歌長歌旋頭歌混本歌折句皆冠迴文誦偕の諸作とのせり 續五明題和歌集 写本 六卷 一ハ撰者と云ハ一ハ氏親撰と云ハ書ハ二十代集ハ一ハ風雅集 新千載集 新拾遺集 新後拾遺集 新續古今集以上五部の集の歌撰の所より採用ハる也近體の所より採用ハる也

題林抄

写本

二十六卷

和書部五

此林の類ねちらう一条後園の歌林抄ハ二巻……
林百二十巻……
春才五十七夏
九十二一雅才二十二公事才二十三人名才二十四短歌才二十五
謙諸歌才二十六賀か……部と……
林思抄
書ハ大抵二八四……

拾題和歌集

十二巻 惠藤一雄

二十一代集三玉集其餘家集歌合……
依らう……

新明題和歌集

十巻

撰者……
……
……
……
……
……

新後明題和歌集

四巻

伯水堂梅風

新明題の集……
……
……

新題林和歌集

十六巻

撰者……
……
……
……
……
……
……
……

為景 惟庸 其餘數十人なり

新續題林和歌集 十六卷

新題林以の歌享保千首寛延千首等代歌と云々
と云々
作者の雲元院 実隆
為村 宗家 光榮 光綱 為久 光恭親王 職仁親王 公福 公野
通夏 重季 実積 光胤 家仁親王 通躬 重豊 為恭 光祖
資はつ等なり 雜の部の末に大首今の歌多所の歌等代所
す 明和元年より本す

部類現象和歌集 十六卷 伯水堂梅風

此書ハ勅撰類題の體よりなりしり 新題林時代よりなほさるる
み集しと云々 竹松ありて元禄十七の二月上本す撰者つと云々
梅風の然りし

撰玉類題和歌集 十六卷 二本

此書ハ部類現象の體といふ 關する所補いらりしと剛
と云々
ちしりしり 撰玉の字が母りしりしり 澄月の序と云々
寛政年中 有賀長收 校正す

袖中證歌集 十六卷 二本

二十一代集六家集三玉集其餘家集歌合のれ、就く題こいた一首の
澄竹松等々袖珍といふ元禄十七の二月上本す撰者つと云々
ら下自序あり

百家類葉 二卷 富士谷成孝

此書新題歌時代の考なりしりしり 法家のまふもた云々
のせりしり 卷首に撰者の自序あり

古今和歌集類題 一卷 松井章隆

古今集の歌よりなりしりしり 河のそとにありしりしり
秋のちわん 万葉集 二十一代集 菅家万葉集 古今六帖
夫木集 六家集 山内河津大和御所 保氏御所 其餘家集
歌合のれしりしりしりしり

六家集類題

六卷

俊成の長秋詠藻 定家への拾遺愚草 同貞外 家隆への五二集
俊承への月清集 慈鎮和尚の拾玉集 西行法師の山家集 以上七
部の集の歌枕合せをくればなり

三玉和歌集類題

七卷

北極原の柏玉集 西三条実隆公の雪玉集 冷泉ゆかりの若玉集
以上二部の集の歌枕あつて見ればなり 又福のちや松井幸隆
これに曇り目九の峰谷又若子跋あり

新三玉和歌集類題

二卷

北極原の兩葉集 中院通茂公の老楓集 烏丸光業公の棠葉
集以上三集の中の歌枕あつて見ればなり 其書體三玉に
なりては新三玉集とす

二槐和歌集

一卷

新三玉集の例に似て中院通村公曰通茂公曰通成公の

千首類題 写本

二卷

尾崎雅嘉

集枕類にさる意の故なり
為家千首 正徹千首 北極原の抄千首 天文千首 慶長千首
元禄千首 貞享千首 享保千首 寛延千首等の歌枕合せくれば
なり 上巻八千首部類の例にあたり 下巻八混雜の歌枕なり
類題なり

續撰吟和歌集類題

六卷 一本

同上

原が後撰抄の文明永心の頃乃禁裏の時令諸家以撰歌其餘抄
りて圖書記本のる雅世の歌しるしに圖書記本のる
小島親成の抄本のる寫本なりしるしるの抄本も別に
の體にあつて袖に記す寛政十一の上本す

新續撰吟和歌集類題

三卷 一本

同上

文明永心の頃乃諸家以抄りて後撰歌のるるに
しるしるの抄本も別にの體にあつて袖に記す寛政十一の上本す



類題 證歌集 写本

八卷 同上

勅撰集私撰集諸家集歌合物語記録寺々禁裏仙洞
今度歌諸家考文ありてててててててててててててててててて
の歌採りててててててててててててててててててててててて
其歌の及ててててててててててててててててててててててて
なしててててててててててててててててててててててててて
みひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
これこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれ
のこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれ
老つててててててててててててててててててててててててて
ててててててててててててててててててててててててててて
このなり

草菴和歌集類題 六卷 一本

懐河は四の草菴集後集は房集のそめ合せこれこれこれこれこれこれ
句なりそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
よの家集の外にそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
又言子のそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
草菴集類題拾遺 一卷

また房集よりこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれ
記未だありては巻末に二條は後集國持の観應とこのなり
そよ此のそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
李花和歌集類題 二卷

李花集は南朝の宗良親王の家集なり今集外の歌採りり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
刊者宗良親王これこれこれこれこれこれこれこれこれこれこれ
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

芳雲和歌集類題 六卷 一本

ハ書ハ武者小路儀同ニ司実陸公の家集...
撰所院の初号...
後之位実在の奥を著し

芳雲類題

歌教...
其...
卷末...
附...
文章...

幸隆類題

中院通茂公の門人...
...
...
...

桂雲集類題

廣澤...
...
...
...

有賀長收...
長收...
師曾...
...
...
...

似雲集類題

似雲法...
武者小路...
...
...
...
...

續似雲集類題

群書一覽

和書部五

文字此二少一一首一カ下万葉集第十一卷十二卷の
 例より一カ下一カ下西峯先生より一カ下和傳朗詠
 八四條大箇言分任の作なり和傳才子の詩句採以採摘一
 上下す和歌八人書くこと一カ下採以採摘一カ下採以採摘一
 今格す西書和歌のしりしりすすれを西書の
 是す一カ下一カ下一カ下一カ下一カ下一カ下一カ下一カ下
 和傳のしりしりすすれを西書のしりしりすすれを西書
 残すの○雅嘉格す西書のしりしりすすれを西書
 今格す西書和歌のしりしりすすれを西書
 長手跡の朗詠採以採摘唐人多王山の長老以下一カ下一カ下
 殊一以く懷負す感懐はたす遂よを取く育のの宝蔵
 備む

和漢朗詠集註

十卷

注の註ハ永濟和歌の註ハ北村季吟の註ハ家世註ハ和歌抄公世註
 とせしむるは朗詠といふこと此書採以採摘今覚明の註ハ一カ下
 の抄ありて俱とせしむること一カ下一カ下一カ下一カ下一カ下
 和傳採以採摘一カ下永濟採以採摘一カ下阿註の身も採以採摘一カ下
 阿註の身も採以採摘一カ下應保元年辛巳十月相扶風病終採以採摘
 之カ下永濟註奥書と云文十一年戊申三月十九日一カ下一カ下
 雖多如本令書字採以採摘見人直為再治而已○寛文十年季吟
 漢字の序に四十一の上木す

新撰朗詠集

二卷

藤原基俊

採以採摘の朗詠集より採以採摘一カ下採以採摘一カ下採以採摘一カ下
 採以採摘一カ下採以採摘一カ下採以採摘一カ下採以採摘一カ下
 採以採摘一カ下採以採摘一カ下採以採摘一カ下採以採摘一カ下
 採以採摘一カ下採以採摘一カ下採以採摘一カ下採以採摘一カ下

群書一覽

和書部五

十一

新編

句お新採用し

百寮和歌

写本

一卷

高大夫實録

括政園白太政大臣左右大内御言等より作内舍人將士
大中少將掎察使太宰帥六位等より作百寮の官名採録
一てめ、百廿餘首の歌なり此作者高大夫實録何人より
易然集 写本

易然集

写本

一卷

寛文二十三年壬子冬竟寧らで山集より作らるるの作歌の歌ハ
文明の林裏作屏風の画の歌し其歌ハ孔子 蘆山漢布
楊貴妃 未登 陶淵明 黄河 老子 楓橋 唐李元 洞濱寺
一々作者ハ 北水尾院 北西院 近世基應公 照光院道見院
と 飛鳥并推章つ 日野弘資つ 烏丸光雄つ 中院通成つ 白川
雅春向王等 詩の歌ハ 菅家 芳野山 聖徳太子 天橋立
弘法大師 須磨浦 道風 神泉苑 暗明 武藏野ホク

五山の僧の作せしもの作りしもの易然の歌手ハ北水尾
院の執事なり 幸山寺同く 同集 北院の歌
子易地則皆然しりて 易然の字ハ孟子 雜書篇の下ニ 嵩樓顔
子易地則皆然しりて 易然の字ハ孟子 雜書篇の下ニ 嵩樓顔
子易地則皆然しりて 易然の字ハ孟子 雜書篇の下ニ 嵩樓顔

文明易然集

写本

一卷

文明の易然の作せしもの作りしもの易然の歌手ハ北水尾
院の執事なり 幸山寺同く 同集 北院の歌
子易地則皆然しりて 易然の字ハ孟子 雜書篇の下ニ 嵩樓顔
子易地則皆然しりて 易然の字ハ孟子 雜書篇の下ニ 嵩樓顔
子易地則皆然しりて 易然の字ハ孟子 雜書篇の下ニ 嵩樓顔

續撰吟抄

写本

六卷

三本

群書一覽

和書部五

十二

福川の西より... 朱墨... 以て...

天心五十首和歌 写本 一卷

天心九十親王... 五十首... 作者一字名竹... 誠仁親王の御... 聖護院道澄... 撰つた人しと者之先院実村...

五葉集 写本 二十卷

或ハ月次集抄... 白川院... 鳥羽院... 五葉集... 号す...

花抄 写本 一卷

良守 良春 頼阿 頼宗 周副 五人の... 号す... 一花五葉集...

句の意... 集... 号す...

五玉集 写本 一卷

五玉集ハ弘長百首の一名... 弘長百首... 号す...

四玉和歌集 写本 一卷

四玉ハ... 弘長百首の例... 号す...

新古今竟宴和歌 写本 一卷

元慶... 竟宴... 和歌... 号す... 日本... 竟宴... 和歌...

は集のなりしをいひた意の了りて飲もりけりとい雜れのや
收りしものし〇拾芥抄も新古今抄と引くも元久二年四月旅行見
るに時々の進進せりてありて歎

厚顔抄 写本

二卷 沙門契冲

卷首よ日本紀和歌畧註とありて此書ハ契冲 西山公の令
りて日本紀の中れ和歌童謡等長短百二十七首ありてこれ
て併りて古事記の歌百七首ありて五十一首ハ日本紀を
これのりて五十六首ありてこれハ契冲日本紀和歌畧
上下古事記和歌畧註一卷勒りて之を卷すす契冲厚顔
抄とありて元禄四年八月僕文の自序ありて〇契冲
ハ人今井似因ガ萬葉緯と云明月記二十九建永二年九月廿日
照付家長進日本紀歌註と望申法橋と云不知其由日本紀
者我朝之國史尤可重若可其沙汰者大臣公卿官外記を可奉
行歟非法師撰進之仁歟 廿三日頭明昇綱所云今案下

惜哉頭明の日本書紀の歌の註今世傳るるにずりて釋日本紀
分等私記引くこれの註ありても語誤りてありて
これ懐賢のりて此の註ハ又此の釋の中某の曰
す倍りては密乘のりて契冲の日本書紀なりといふ
記の歌の註厚顔抄三卷ハ契冲の撰りて蓋頭なりといふ
は神代卷の歌百首人皇紀の歌百二十首凡て百二十六
首連歌二首なり

紀 記歌集

二卷

真淵の人諸鳥をいれりて上卷ハ日本紀の歌下卷ハ古
記のりて終りてやこれハ契冲の撰りてなり
といふれりては契冲の撰りてなり
〇凡例に日本紀古事記の記兩書ありてハ日本紀の方
に記ありて古事記の記ありては契冲の撰りてなり
ハ契冲の撰りてなりハ契冲の撰りてなりハ契冲の撰りてなり

群書一覽

十五

の左は傍書す。二記す。学者の好むものなり。下巻を
この自序曰く八月大臣魚足直字の跋あり

日本紀歌解 二卷 宇治五十槻

日本紀の... 宇治の原稿あり
大... 今刺刷あり

續日本後紀歌解 一卷 同上

此の外題は... 幸直の序より... 乃四十算を算む

僧徒のりて... 今井似爾より人のけ

の園人田内秀真... 今井似爾より人のけ

萬葉緯... 今井似爾より人のけ

正... 今井似爾より人のけ

の跋りり曰く... 今井似爾より人のけ

本紀の... 今井似爾より人のけ

か... 今井似爾より人のけ

う... 今井似爾より人のけ

竹取翁歌解 一卷 同上

萬葉集第十一卷を... 竹取翁の傳り... 竹取翁の傳り

群書一覽

和書部五

十六

十一
 年四月攝経亮乃序
 今月廿一
 人くもか
 ころは
 神主助備の跋
 竹取乃翁の
 真因の翁
 兼盛
 貫之
 伊勢
 兼輔

撰歌類

三十六人撰

一卷

一
 平親
 八歌
 秀致
 一
 人丸
 敷忠
 小大君
 兼盛
 貫之
 伊勢
 兼輔

洋書一覽

和書部五

十七

新三十六歌仙

一巻

昭 順 元輔 朝忠 高光 友則 小西 忠岑 頼
基 信明 元真 仲文 忠見 中務 山々 九
〇思問賢 〇五首之首之 〇和歌 〇和歌
〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌
〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌
〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌
〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌
〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌 〇和歌

後

一巻

在原元方 輔親 高遠 馬内侍 友系 義孝
道綱 母 友系 長緒 定礼 上東内院中將 兼寛王
系 棟梁 文屋 康秀 友系 忠房 菅原 浦昭 大江 匡衡
法師 清中納言

新三十六歌仙

一巻

撰者 元 二年 春 假名 の 序
謙倉 宮宗 尊親王 入道 二品 親王道助 式子内親王
以良 光明 峯寺 入道 拾遺 西園寺 入道
大臣 通光 富小路 前太政大臣 實民
臣 兼家 衣笠 前内大臣 兼家
大臣 言通 具持 中内言定 家八 條院
門院 言通 具持 中内言定 家八 條院
大臣 言通 具持 中内言定 家八 條院

詳書一覽

和書部五

十八

隆祐^{タカフ}の長^{チカ} 大直^{オホナホ}末^{スエ}枝^エの具親^{ミモト}の長^{チカ} ^上但馬守^{ツルギノ}保家^{タマケ}長^{チカ}の長^{チカ} 鴨^{カモ}長^{チカ}
 明^{アカリ}友系^{トモキ}秀^{ヒコ}能^ノ 以上各十首^{ミヤコ}有り ^下一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

中古二十六歌仙 一卷

撰者^{セン}ハ... ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

仁^ニ和^ワの長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

皇^{ミコ}太后^{テウ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

大藏^{テウザウ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

信^{シノブ}実^{ミツ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

家^カ長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

寂^{シヤク}蓮^{レン}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

女^メ房^{ハウ}二十六人^{ニジュウロクジン}歌仙^{カセン} 一卷

撰者^{セン}ハ... ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

仁^ニ和^ワの長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

皇^{ミコ}太后^{テウ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

大藏^{テウザウ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

信^{シノブ}実^{ミツ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

家^カ長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

寂^{シヤク}蓮^{レン}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

撰者^{セン}ハ... ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

仁^ニ和^ワの長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

皇^{ミコ}太后^{テウ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

大藏^{テウザウ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

信^{シノブ}実^{ミツ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

家^カ長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

寂^{シヤク}蓮^{レン}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

女^メ房^{ハウ}二十六人^{ニジュウロクジン}歌仙^{カセン} 一卷

撰者^{セン}ハ... ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

仁^ニ和^ワの長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

皇^{ミコ}太后^{テウ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

大藏^{テウザウ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

信^{シノブ}実^{ミツ}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

家^カ長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

寂^{シヤク}蓮^{レン}の長^{チカ} ^下各^{カク}十^{ジュウ}首^{シユ}有り ^上一名^{ナヒ}於^オ撰^{セン}後^{ノチ}と十六^{ムギ}有り

古二十六歌仙の
五種のうら
か
このせ
身刊
抄
古二十六歌仙の
五種のうら
か
このせ
身刊
抄

歌仙大和抄

二卷

歌仙拾穂抄

二卷

歌仙二葉抄

二卷

宗直傳字の
二十六人歌仙
抄
宗直傳字の
二十六人歌仙
抄

就重の
れ
興
九品和歌

九品和歌

一卷

古人の歌
中下
下上
下中
下
上
中
下
中
下

自讃歌

一卷

太上天皇
式子内親王
其系
亦父傳正
其系

和書部五

三十二

詠歌の法式歌学最要の事ども何れもせられたる巻の序の

序の法式歌学最要の事ども何れもせられたる巻の序の

一 正義部 六義 序代 短歌 久歌 旋代 混本

二 折句 皆冠 抄名 贈答 連歌 八病 歌合 今合

三 作者 清書 校集 歌合 歌今 書様 題 判者 序者

四 言語部 世俗言 由緒言 料言

五 名所部 山嶺 杜林 河川 社寺 草木

六 用意部 巻のハナハナ 巻のハナハナ 巻のハナハナ

七 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

八 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

九 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

十 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

十一 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

十二 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

十三 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

十四 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

十五 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

十六 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

十七 奥儀抄 三卷 四本 藤原清輔

奥儀抄

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

真字の假字とヤトフて和今令の作法よりとてせらるる

めて金葉千載句抄のりててははつひのりて
これにわりのあつらひてはかたきりて○書の他者ス
悉法わ高しりしりてはかたきりてはかたきりて
和歌集の中かたきりてはかたきりてはかたきりて
ひたして悉法わ高しりてはかたきりてはかたきりて

新撰髓脳

一卷 大納言公任

今病のりてはかたきりてはかたきりてはかたきりて
いもかたきりてはかたきりてはかたきりてはかたきりて
納言公任自筆中今書字本丸うかたきりてはかたきりて

古語深秘抄

十卷 刊行す惠友一雄の序

いりてはかたきりてはかたきりてはかたきりて
秘抄のりてはかたきりてはかたきりてはかたきりて
歌経標式 喜撰和歌式 孫娘和歌式 石見本

秘藏抄

三卷 躬恒作

新撰髓脳

一卷 公任卿

莫傳抄

一卷 信光

和歌肝要

一卷 信成

和歌諸作四病八病六病八病十建保二年永仁四年の真ちり

後鳥羽院御傳 一卷

和歌の至要... 仁徳天皇二十二月教念上
所拵中書子の中... 筆子... の奥立ちり... 又書...
の奥立ちり

和歌式 一卷 定家

和歌式... 信信... 信信... 基俊... 成未...
の... 和歌... 和歌... 和歌... 和歌...
又... の奥立ちり

心風體抄 一卷 同上

心風體抄... 十載... 和歌... 和歌...
十載... 和歌... 和歌... 和歌...
和歌... 和歌... 和歌... 和歌...

和歌庭訓 一卷 同上

和歌庭訓... 一名... 和歌... 和歌...
一名... 和歌... 和歌... 和歌...
和歌... 和歌... 和歌... 和歌...

建武四の事 一卷 家隆

建武四の事... 近來... 建武... 建武...
近來... 建武... 建武... 建武...
建武... 建武... 建武... 建武...

近來風體抄 一卷 良基

近來風體抄... 建武... 建武... 建武...
建武... 建武... 建武... 建武...
建武... 建武... 建武... 建武...

瑩玉集 一卷 鴨長明

瑩玉集... 和歌... 和歌... 和歌...
和歌... 和歌... 和歌... 和歌...
和歌... 和歌... 和歌... 和歌...

讎河上 一卷 亦ハハ

讎河上... 和歌... 和歌... 和歌...
和歌... 和歌... 和歌... 和歌...
和歌... 和歌... 和歌... 和歌...

八雲口傳 一卷 為家

八雲口傳... 和歌... 和歌... 和歌...
和歌... 和歌... 和歌... 和歌...
和歌... 和歌... 和歌... 和歌...

和歌部

和歌部五

三十九

一名和歌二作と号す和歌の考は九百十作の制の和のり
古く和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は
の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は

阿佛

耕雲口傳一卷
和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は

桂明抄 一卷
和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は

和歌六部抄 六卷
和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は

桂明抄 一卷
和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は

和歌二言集 一卷
和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は

和歌用意条 一卷
和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は

和歌六部抄 六卷
和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は

詳書一覽 和書部五
和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は和歌の考は

和歌式 定家卿

八雲口傳 為家卿

和歌口傳 家隆

詠歌大概

歌枕

枕井

尺一

詠歌大概抄

玄音法

ら

ぐ

の

未来記 雨中吟

一卷

定家卿

正風体抄 同上

和歌庭訓 同上

一卷

定家卿

二卷

細川幽齋

我

相

抄

海

十

の

未来記

雨中吟

一卷

定家卿

定家卿の四季恋との十首しるしめは前和歌得業生柿本貫

躬より他名とわかれし書は未来記と稱せしむるは生

のしるしは致を流すまじきすは長きく優

又やこころをいねにたたりしす新らいたく

しるしはあさんす却く相違はむさすれはなぬを

つげまわれぬ名おまほすは近代の秀詩をぬす

てんかへりてはるるの家の庭訓と侵し

達のをしるすはわがうらまはせむめけり

けりしるしはあさんす却く相違はむさすれはなぬを

つげまわれぬ名おまほすは近代の秀詩をぬす

てんかへりてはるるの家の庭訓と侵し

達のをしるすはわがうらまはせむめけり

けりしるしはあさんす却く相違はむさすれはなぬを

つげまわれぬ名おまほすは近代の秀詩をぬす

てんかへりてはるるの家の庭訓と侵し

達のをしるすはわがうらまはせむめけり

けりしるしはあさんす却く相違はむさすれはなぬを

つげまわれぬ名おまほすは近代の秀詩をぬす

てんかへりてはるるの家の庭訓と侵し

達のをしるすはわがうらまはせむめけり

けりしるしはあさんす却く相違はむさすれはなぬを

つげまわれぬ名おまほすは近代の秀詩をぬす

てんかへりてはるるの家の庭訓と侵し

達のをしるすはわがうらまはせむめけり

和書部五

和書部五

三十一

宗祇遺齋ハシの古抄ハシ二卷 齋ハシの増ハシ八巻 貞心ハシの記ハシ二巻 宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻
和歌七部抄 八巻 宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻
詠歌大概 一巻 宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻
三休和歌 一巻 宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻
兼ハシ玩抄 字本 一巻 宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻
卷首ハシ三巻 宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻
承元ハシ二年九月老後更書写之ハシ之代撰者兼門融覚判ハシ○融覚公
家の法ハシる

定家物語 写本 一巻 宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻
以家持中御言入ハシの御言ハシを宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻
三五記 二巻 宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻
上巻 敬の御の御言ハシ十神ハシ八ハシ神ハシ八ハシの御言ハシ三十八御ハシ一ハシの御言
下巻 敬の御の御言ハシ十神ハシ八ハシ神ハシ八ハシの御言ハシ三十八御ハシ一ハシの御言
定家の他ハシの御言ハシの御言ハシの御言ハシの御言ハシの御言ハシの御言ハシの御言ハシの御言ハシ
愚ハシ秘書 二巻 宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻
宗祇遺齋の古抄二卷 齋の増八巻 貞心の記二巻

群書一覽

和書部五

三十三

手一

古来風體抄

五卷

俊成卿

いかりうき... 古来風體抄... 俊成卿... 五卷... 手一

近來風體

一卷

二条良基公

近來風體... 二条良基公... 一卷... 手一

群書

和書部五

三十五

井蛙抄脱露

写本 一卷

これとせり流布す利市井蛙が雑法の部の末の狂言
り十二ヶ条をうりやうと雑法にせりめし
夫ららののりし物にせり其まは明徳中庚午の二月
日法下巻と判りし

愚問賢注

一卷

は普光園松良基公和号の...
愚問ハ良基公の問賢注ハ松河の答に傾けおせつもの
半之春ま五湖釣翁と有りこれハ良基公の他名也○耳底
記ハ井蛙抄愚問賢注に依りて編布し人けせり

愚問賢注

五卷

松井章隆

愚問賢注ハ松河の答に傾けおせつもの
半之春ま五湖釣翁と有りこれハ良基公の他名也○耳底
記ハ井蛙抄愚問賢注に依りて編布し人けせり

歌林良材集

二卷

一條兼良公

は書題号ハ松河の自序に依りて編布し人けせり

群書一覽

和書部五

三十一

未だ... 代... 材... 定家... 月... 歌... 詠... 歌...
未だ... 代... 材... 定家... 月... 歌... 詠... 歌...
未だ... 代... 材... 定家... 月... 歌... 詠... 歌...
未だ... 代... 材... 定家... 月... 歌... 詠... 歌...
未だ... 代... 材... 定家... 月... 歌... 詠... 歌...
未だ... 代... 材... 定家... 月... 歌... 詠... 歌...
未だ... 代... 材... 定家... 月... 歌... 詠... 歌...
未だ... 代... 材... 定家... 月... 歌... 詠... 歌...
未だ... 代... 材... 定家... 月... 歌... 詠... 歌...
未だ... 代... 材... 定家... 月... 歌... 詠... 歌...

上巻 百二十七七条
下巻 五十八ケ条
續歌林良材集 二巻 下河邊長流

百二十七七条 歌... 歌... 歌...
五十八ケ条 歌... 歌... 歌...
續歌林良材集 二巻 下河邊長流

永言... 万葉... 標...
永言... 万葉... 標...
永言... 万葉... 標...

言塵集

七巻

今川了俊

- 卷之一 序巻 立春 門松 若菜 若水 氷様 腹赤 國柘
- 子日 卯杖 卯萩 白馬 市春令 賭射 おの徳をとりけり
- 卷之二 句の偽 万葉ののり 万葉ののり 万葉ののり
- 卷之三 句乃良 巻之四 句の良 句の良
- 卷之五 句の良 句の良 句の良
- 卷之六 句の良 句の良 句の良
- 卷之七 句の良 句の良 句の良

群書一覽

和書部五

和書部五

入りけせせふをいりて其の旨を合九小田正信の依りて其の旨を
才七巻を其の旨を合九小田正信の依りて其の旨を
五月日ハ十二巻正信の旨を合九小田正信の依りて其の旨を

藻鹽草

二十卷

月村齋宗碩

一ハ二十四巻よりハ宗碩の宗徳のつら
と奈西友道遠沈実隆公の指引ありて其の旨を合九小田正信の依りて其の旨を
の旨を合九小田正信の依りて其の旨を
一天象 二時節 三地儀 四山類 五水邊 六居所
七國世界 八草部 九木部 十鳥類 十一獸類 十二虫部
十三魚部 十四氣形部 十五人倫并異名 十六人事部
十七人事雜物并調度部 十八衣類部 十九食物部 二十詞部

續藻鹽草

十卷

東野州聞書

一卷 五本

東左近大夫平常緑御書記をわかれの御書
あせり血體のそは發明の役多し常緑は名實素行
て人明の御書記をわかれの御書

齋聞書

二卷

家傳の諸位ありて家傳佐方吉右衛門法名宗佐筆録
冊子ありて宗依和哥と陳磨の切ある撰寫文集よりわかれ
一書卷ありて宗依の序ありて一本と傳聞書合と標
一冊のわかれと宗依の序ありて一冊のわかれと宗依の序あり
一冊のわかれと宗依の序ありて一冊のわかれと宗依の序あり

徹物語

二卷

群書一覽

和書部五

三十九

新書一覽

心後ハ法嚴和尚トモヨシの書記シヨキなり。ゆへに後主ゴウハ
林下定家サダメノサダノカの執トクりて人々ヒトハ書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ

敬ウヤと云ふ。二卷
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ

歌林カ雜話サツワ 二卷 四本 同上
一名ヒトナヒ具ツク實シヨク恩オン記キと云ふ。心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ

二根集ニネノツミ 字本 一卷
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ

座カ右集ミダヒノツミ 字本 二卷
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ
心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ心後ココロノチノチの書ハ

新書一覽 和書部五

四十一

新書一覽

万葉集もねはれし中より一冊ありては、
わらわはの大方のあつて、
集兩冊昌珍老の所被り書也和歌之秘註此道之至宝
不可出宮外者也今以兩本合校命平花雪軒

耳底記

一卷

細川玄甫はこれに、
なり○
の時のつみまき
の時のつみまき

春雨抄

十卷二十本 鱧重帝

わを連歌本の問はつら
と書りし連歌者流の
まくのせり完承承やゆの徳氏

和歌題林抄

二卷

四季恋雜の題の
よし
近き世は一条深閑
春夏秋の歌
秋者よ

増補和歌題林抄

十一卷

此書ハ二卷の和歌林抄より
るよ
よま

新書一覽 和書部五

四十一

新編

古今和歌集の五句までのはじめの
の句をとりしめしむるは、
の句をとりしめしむるは、
の句をとりしめしむるは、

夫木抄類句 三十卷

夫木抄のくくは春山かれ句の例にあつた

草菴集類句 四卷

これ春山の句のくくは春山かれ句の例にあつた

五句類葉集 三卷 松枝子春

二十一代集の家集大和物作保氏物作換名おのそれ五句の
そゆい詞のれはらほのそよはつた

字をとりしめしむるは、
字をとりしめしむるは、

類葉和歌集 六卷

おわたりしめしむるは、
おわたりしめしむるは、

藏王和歌集 一卷

草木のた名十二月のた名おのそれ五句の
此一卷者自室町名麻布ゆり

条務の良基公被進は、
条務の良基公被進は、

吳竹集 十卷

わを連すれは、
わを連すれは、

吳竹集 二卷

おわたりしめしむるは、
おわたりしめしむるは、

字をとりしめしむるは、
字をとりしめしむるは、

洋書一覽

四十三

和歌書

才四卷より才五巻のりしを、チカチカとよみ、ヒラカヒラカとよみ、

和歌書

六巻

一名歌道人カミカミ志しり、人丸ヒラカ人丸、チカチカとよみ、ヒラカヒラカとよみ、
おせおまおのくれば、おれおれとよみ、ヒラカヒラカとよみ、
のせり、ヒラカヒラカとよみ、

詠

五巻

廣澤の長考より、人風カミ人風、ヒラカヒラカとよみ、ヒラカヒラカとよみ、
のく長肅身ヒラカヒラカとよみ、ヒラカヒラカとよみ、
のく、ヒラカヒラカとよみ、

題

一巻

四季志雜のれ、ヒラカヒラカとよみ、ヒラカヒラカとよみ、
稀ヒラカヒラカとよみ、ヒラカヒラカとよみ、

皇統尊詳等讀曲切紙

一巻

皇統尊詳等讀曲切紙 ヒラカヒラカとよみ、
のく、ヒラカヒラカとよみ、

人名の、ヒラカヒラカとよみ、
のく、ヒラカヒラカとよみ、

姉小路式

一巻

とよみ、ヒラカヒラカとよみ、
のく、ヒラカヒラカとよみ、

和書一覽

四十六

和書一覽 和書部五
一巻
和書一覽 和書部五
一巻
和書一覽 和書部五
一巻

飛鳥井家式法 写本 一巻

飛鳥井家式法 写本 一巻
飛鳥井家式法 写本 一巻
飛鳥井家式法 写本 一巻
飛鳥井家式法 写本 一巻

和歌饗宴私記 写本 一巻
和歌饗宴私記 写本 一巻
和歌饗宴私記 写本 一巻
和歌饗宴私記 写本 一巻

春樹頭秘抄 写本 一巻

春樹頭秘抄 写本 一巻
春樹頭秘抄 写本 一巻
春樹頭秘抄 写本 一巻
春樹頭秘抄 写本 一巻

和歌饗宴私記 写本 一巻
和歌饗宴私記 写本 一巻
和歌饗宴私記 写本 一巻
和歌饗宴私記 写本 一巻

飛鳥井家式法 写本 一巻

飛鳥井家式法 写本 一巻
飛鳥井家式法 写本 一巻
飛鳥井家式法 写本 一巻
飛鳥井家式法 写本 一巻

和書一覽

四十六

新書一覽

四十二

中院通なるれゆはしむ松門人ね井音佳のま化せしむ

歌林飛弾工 写本 一卷

通なるれゆはしむ松門人ね井音佳のま化せしむ

詞林拾葉 写本 一卷

此書ハ武者小治実陸軍は者河の... 詞林拾葉 写本 一卷

徳玉集 写本 一卷

鳥九光栄公の口穂松門人某のすまわり 近體のうか学す人

梨本集 一卷五本 梨木茂睡

近體のうか小點の初まも... 梨本集 一卷五本 梨木茂睡

和歌伊勢海 二卷

和歌伊勢海 二卷 見やひりえんかやひりえん... 一二のを... 信実終

和書部五

四十二

新編一覽

四十七

集外歌伝 和傳の歌合 之曙之夕の歌 飛多子雅章の言々
才之の老いハ 伝子相傳在云々 紙経無書信 折多経冊に
の十箇 屏風撰る紙の抄 ふとせや けり毛の奥まのり
夫の十 まの月竹の傍に善信
満 の玉 五卷

此書ハ 二體 之夕 四季 四隅 五行 五と 八景 十如是
十二月花多 廿一代集巻の巻軸歌 九十賀を おね
鳴の羽 拾 二卷
曙夕暮百首 大はと何と云一多 おのり おのり 室ふ 四 刻

元禄四の上

拍傳

一卷

野田忠肅

おが このてが 考 考 之 之 十餘種 の拍
の の 考 考 之 之 十餘種 の拍
て これと 考 考 之 之 十餘種 の拍
ま ま 考 考 之 之 十餘種 の拍

歌囊井蛙談

二卷

百菴言稿

歌袋の い 夫 夫 考 考 之 之 十餘種 の拍
の の 考 考 之 之 十餘種 の拍
の の 考 考 之 之 十餘種 の拍
の の 考 考 之 之 十餘種 の拍
同 上

歌林記識編

同上

和書部五

四十八

和歌八重垣 七卷 有智長伯
 一 二 三 四 五 六 七
 初学和歌式 七卷 同上
 卷之一 今はよきとて 権はれ 加実なむや
 卷之二より 卷之四まで 扱は相成石おゑのや 四季志雑のむの
 卷之五 今やよきとて 返すけれ 兼題富座うのの
 山卷のあがり 卷の七まで 三代集向よせ
 卷之七 わすの白 諸抄のほけし 山伝とよ 四月上本す
 濱れすこと 二卷 同上
 四季志雑各巻とらうく 代す 白のあけ
 和歌分類 七卷 同上
 初書部五

和歌二葉草 七卷 同上
 四季志雑部 血體のし 何れせ
 初学和歌式 七卷 同上
 卷之一 今はよきとて 権はれ 加実なむや
 卷之二より 卷之四まで 扱は相成石おゑのや 四季志雑のむの
 卷之五 今やよきとて 返すけれ 兼題富座うのの
 山卷のあがり 卷の七まで 三代集向よせ
 卷之七 わすの白 諸抄のほけし 山伝とよ 四月上本す
 濱れすこと 二卷 同上
 四季志雑各巻とらうく 代す 白のあけ
 和歌分類 七卷 同上

和歌道

四十九

天象 地儀より 萬草本よりして 近作の... 句も 和歌道... 他者より... 和歌道...

歌林雜木抄

六卷 同上

四季志の題部... 和歌道... 長伯七部の書... 和歌道...

和歌道

三卷 同上

此書ハ... 和歌道... 和歌道...

和歌道

一卷

和歌道... 和歌道... 和歌道...

増補和歌道

九卷 河瀬普雄

増補和歌道... 和歌道... 和歌道...

和書部五

五十一

そのたゞつては初学ニ至りては其部支れ部
とて文の部ハ近仰のそむき道の記備息の
かゝるものたゞ何のあやまらざるやあはれ
の何とてさすかしのききききききききき
ては引個 二卷 梅井一室
世に流布するものにしては大概お春お秋お
考つて書中実情を先考らるるの序に
蜘蛛のすくも 二卷 同上

かじりか 二卷 三田士谷成章
その虚字の如きものにしては梅頭装束脚結
かじりか 五卷 同上
く引かたりと巻首に不盡谷氏は侍内人筆受
序と載る
あゆみか 六卷 同上
その虚字の如きものにしては梅頭装束脚結
家六倫十二身八隊ホカ
和歌虚詞考 一卷二本 加藤景範
その虚辞の如きはのたまはるるもの
あけくは 雅行らるるもの
んかひいおなへ

和書部五

五十二

ついでに虚内... 二十一代集の... 春有賀長... 同... 同...

和歌寶鏡集

二十一集の... 四季... 類集... 寛政辛亥... 梓...

濱

天象... 方位... 地儀... 居所... 草木... 鳥獸... 人...

和歌玉栢

二条家... 五月... 故実... 度會... 常夏...

異名類抄

天時節... 居取... 器財... 衣食... 魚貝... 鳥獸... 虫... 地...

歌意考

一巻... 賀茂真淵... 上代の... 下代の...

万葉集

万葉集の古今集の分れは、
万葉集の古今集の分れは、
万葉集の古今集の分れは、
万葉集の古今集の分れは、
万葉集の古今集の分れは、

ふりまけみ

一卷

小澤サカ菴

和歌部類抄 七卷
一首のれは、
一首のれは、
一首のれは、
一首のれは、
一首のれは、

増補和歌明題部類

二卷 尾崎雅嘉

此書、原和歌明題部類の増補、
此書、原和歌明題部類の増補、
此書、原和歌明題部類の増補、
此書、原和歌明題部類の増補、
此書、原和歌明題部類の増補、

和歌部類

五十四

此類は真何人の撰か... 一首通形... 七首十首二十首百首... 附刻の名不考を國に代る不考あり

和歌題辭要解

一卷 伴蒿溪

四季志雜の歌の解... 一巻 伴蒿溪

枕詞燭明抄

三卷 下河邊長流

此書作者の名知らず... 萬葉集時代... 枕詞燭明抄

冠辭考

十卷 賀茂真淵

よしの花河... 冠辭考... 賀茂真淵

冠辭考續貂

七卷 上田秋成

真淵の冠辭考... 冠辭考續貂... 上田秋成

詞草小苑

一卷 建涼山

和書部五

此書も五音五十字の枕詞の一首なりて此人の著也
詞は五音五十字の枕詞の一首なりて此人の著也

枕詞

補註

二卷

尾崎雅嘉

此書原本二卷枕詞一首の西三条通運院実隆公の作也
其後よの燈明おの大田の美利の作也
道達院殿の抄釋の作也
其の二は枕詞一首の作也
其の三は枕詞一首の作也
其の四は枕詞一首の作也
其の五は枕詞一首の作也
其の六は枕詞一首の作也
其の七は枕詞一首の作也
其の八は枕詞一首の作也
其の九は枕詞一首の作也
其の十は枕詞一首の作也

巻の二 自序 附す寛政十一年の上本す



和書一覽

詩文類

悽風藻

一卷二本 淡海三船

皇分（皇分） 淡海の権輿（淡海の権輿） 抄者の名不詳（抄者の名不詳） 漢文の自序は
 淡海の約して平都の監ふまで凡一百二十篇勅して一卷とな
 す作者六十四人具は姓名不詳一併しく爵里を記して一節
 首は冠りしむく時は天平勝宝二年辛卯十一月○作者は卷首
 は大友皇子二首 河島皇子一首 大津皇子四首 かれはくは
 一してのりしむくは文武天皇二首 紀朝臣古麻呂二首 釋辨（釋辨）
 年中の作 大伴旅人 下毛野朝臣 蘇麻呂 詩并序 等 いては卷末は葛井
 連廣成の注あり○目錄の註は各以時代相次不尊卑等叙して
 奥書として長久二年冬十一月文章生惟宗廣言く又康和元年の
 比蓮季と院室藏の印を採出す
 友皇子の弟孫淡海法師如りしむくは文院林氏の辨りしむく

和書一覽

和書部五

五十八

刊本ハ天和四年山陽重顯の跋に云く○按ずると古今和歌集の真本ハ序
ハ大津皇子に功あり詩賦所作あり人才子國と慕ひ
塵々然と云ふなり日本のは賦ハ大津の白皇子の撰なり
今此集ハ大津皇子より先ハ大友皇子の撰ニ首
何のせりされん皇女の撰ハ大友皇子と視ふべきや
文萃秀麗集 字本 一卷
撰者はさしりて一冊ハ大友皇子の撰ニ首ハ大友皇子の撰ニ首
のせり○古書ふや二巻なり一ハ古き書目より今存
なり一ハ今存なり一ハ今存なり
經國集 字本 六卷
古書ハ二十巻なり一ハ良岑安世滋野有主等の撰今存すハ
後撰の撰ハ春の目録に左の本
卷第一 賦 太上天皇春江賦より 滋野朝臣負主重陽節神泉苑
賦秋河哀應製より十七首

卷第十一 詩九 樂府 太上天皇塞下曲より 惟春道賦得深山
寺 應太上天皇御製より五十九首
卷第十二 詩十 雜詠 平城天皇詠殿前接より 文章生徒八
位下藤原朝臣令緒早春途中より五十九首
卷第十三 詩十二 雜詠二 太上天皇雜言九日賦菊菖蒲より伊永
氏五言冬日友人田家被酒より四十四首
卷第十四 詩十三 雜詠四 野岑寺五言奉詠天より 滋野朝臣負主五言遠
和瑞州浄長史丹治中得絮柳請植左大將軍前院之作より二十
九首
卷第二十 葉下 駿河介六位上紀朝臣真象の對策ハ文より大神
直虫磨の對策ハのより二十六首
○第一卷の奥書ハ曰康永癸未之歲初秋上旬之候於西郡島若祖枝
磯之點畫之誤尚以有疑此書僅華王院宝藏之本也近古以來
魚尾野之入金王之聲久埋塵埃之底卷軸多々紛失形遺僅上

都、良香の文集あり富士、記し山書中へん、○菅公の母
良香何ん、

菅家文章

十二卷

菅原贈太政大臣道隆の詩文集あり、才基より才六卷とて、詩
あり、才七卷より才十二卷とて、文あり、奥書に云、文承元年八月八日
進、北野廟院、實文三年丁未六月洛陽、後学愚菴福春洞、致又元祿
十三年水戸府中村、願言校訂菅家文章の跋、我水戸西山公
篤好乎古、每以印本文草、誦闕多、往有不可解者、為遺憾久之、
獲一善本、於某所、欲廣于世、乃命、龍刺、剛氏、校訂、登梓、於是、
其闕、正其訛、之、如其後、草絶、而僅有、樂搜、京師、錄倉、得後、草
二部、亦異、坊間、以資、校讎、之、○按、下、御室、書目、詩家、の、都、菅
家、文集、之、帖、又、菅家、文章、十二卷、と、云、之、菅家、文集、ハ、銀、勝、朝、權
の、次、載、之、是、是、善、御、校、之、也、

菅家後集

一卷

此後集、菅公太宰府、貶任、れ、れ、の、形、也、あり、○林、直
春、の、木、朝、神、社、考、曰、平、生、所、詠、和、歌、曰、菅家、御集、其、詩、文、曰、菅家
文章、其、在、宰、府、所、著、詩、文、曰、菅家、後集、○註、曰、御集、一、卷、文章、十
二、卷、後集、三、卷、又、別、有、菅家、日記、○扶、桑、略、記、曰、昌、泰、三、年、庚、申
八、月、十、五、日、右、大、臣、菅、原、朝、臣、上、状、奏、進、家、集、二、十、八、卷、○菅、原、陳、經
菅家、御傳、曰、昌、泰、三、年、八、月、十、六、日、獻、上、家、集、合、廿、八、卷、○註、曰
祖、父、清、公、菅、原、家、集、六、卷、親、父、是、善、菅、相、公、集、十、卷、道、直、菅、家
文章、十二、卷、○按、下、菅家、文集、十三、卷、と、云、之、菅、原、朝、臣、ハ
中、集、十二、卷、よ、は、ま、一、卷、何、合、せ、り、の、な、が、林、子、の、記、ハ
ま、ま、三、卷、と、云、之、菅、原、朝、臣、ハ、一、卷、ハ、り、け、ん、一、卷、ハ、り、け、ん、中
今、刊、中、ハ、黒、川、道、祐、の、よ、り、也、

三教指歸

三卷一本

釋空海

之、教、ハ、釋、氏、李、氏、老、子、孔、氏、カ、リ、指、歸、ハ、一、卷、也、○卷、首、ハ、自、序、と、云
之、聖、者、聖、入、教、網、之、種、所、謂、釋、李、孔、雜、淺、深、有、隔、並、皆、聖、說、若、入

和書部五

一 羅何氏忠孝之... 卷上 龜毛先生論 卷中 虛亡隱士論 卷下 假名乞兒論

の刊本再板... 大師遺誠... 外舅朝散大夫... 直講... 博士... 泉州... 戒と受七十二の威儀と... 改む

三教指歸覺明註 七卷

江府愛宕沙門運敬之教指歸註刪補の序... 及成安... 注解と撰す... 二卷... 采輯... 合

三教指歸註刪補 七卷 沙門運敬

萬治己亥二月運敬自序... 尚... 乃釋... 此書成て... 明... 誠愛身靜慮堂東軒... 何了寛文二年春刊行す

文鏡秘府論 六卷 釋空海

詩式文法... 自序... 卷一天 調四聲譜 卷二地 論體勢寺

和書部五

六廿三

卷三 東 論對
卷五 西 論病
卷四 南 論文意
卷六 北 論對屬
十卷 同上

性靈集

弘法大師の詩文集なり大和の上足高雄の真濟より九帖編十帖書
每巻の首は應照發揮性靈集とありせり真濟の序より西山禪念
沙門真濟撰集とあり

第一詩 第二文 卷首は性靈集文章抄第二印記とあり
第三詩 第四文 第五第六第七文
第八文 卷首は發顯發揮性靈集補圖抄とあり
第九文 第十文并し詩に載し十餘詩九相詩等此卷十二

性靈集鈔

本集の註あり又十二巻の鈔あり作者とつゞりしとせす
十七巻 沙門運敬
二十巻 虎国禪師

濟北集

東福寺虎国禪師の詩文集なり○起羊録に師諱ハ師鍊自虎国
と號す姓ハ藤氏洛陽人なり父者左金吾授尉野者源氏賢
なり女子ハ生師ハ其子なり○按ずる虎国聚々韻略に
らるやハハ二条院の嘉元四年なり又元亨釋書の卷末ハ大日
本國平安城濟北大沙門虎国禪師とあり

寂室録

江洲永源寺閑山玄光寂室の集なり寂室ハ南禪寺佛燈の嗣法
乃弟子なり南遊して元の中奉國師端元叟茂古林澄清撰す
の名初ハ参和なり元より五十六の永源に於て示寂す七十八歳
なり天龍建仁の徵命撰詩一枯淡松甘とあり名僧なり虎国
推許せしは二條良基公らハ筆跡に實す

梅花魚書藏

万里の詩集なり自註ありの中ハ光國の註もあり
新字手簡あり○梅花魚書藏ハ万里の別号なり

和書部五

和書部五

万里情涉
 醫書云梅花魚畫藏之卷は甲斐徳本の著すところなり同書
 似しくい書し混すりなり

帳中香

二十一卷 本同上

山谷詩集の抄し字なり
 卷の序は梅花魚畫藏漆桶萬里編よりなり
 萬里情涉書尚友古人暇日把此集以二傳焉十翼焉何名以報
 中香曰昔龍樹觀摩訶而不知其宗趣也吾亦觀此集而徹其奧
 也後未字者觀之以領其旨也判然然陸放翁氏所謂吾國
 以香為佛事者寔非淺鮮是以名焉云云
 魚畫藏萬里老人講獲黃兩家之詩集於棘隱軒而作鈔日久
 矣號曰天下白曰帳中香其鈔之至精也能決人之狐疑疑為世

四

河入海

百卷

東坡詩集の抄かり建長寺の住笑雲子法座主の九代集なり
 活字なり○東見記曰四河入海大岳の翰花遺芳江西の天馬
 玉津沫瑞溪の脛説万里の天下白と四部合かり此外翰花遺
 芳と瑞溪と雪降と是よりくそ是よりく天下白とあるなり
 且東坡夢雪とあり此のりては子孫の句の越女天下
 白よりくそなり

翰林葫蘆集

字本 一卷

半陶稿

二卷

此書は禪僧宜符の詩集なり宜符は明應の比のりなり

聖書一覽

和書部五

相國寺法住院の彦龍藏主周興の集なり彦龍は深草の陶工の子横川和尚の弟子一書林の英秀が四六の文うたかりとて西蔵一寂す猶宜竹軒景徐の序なり
撰高の曰彦藏雖為異教之徒又一代偉人余所其愛重也
彭叔和尚録字本 一卷

南禅寺の前住東福寺の見住彭叔守仙の詩偈文章の集なり天文年中の作多し聚ふ韵の跋北野天神の贊子乃寺なり天神の贊は存は渡唐天神の像のなり
宗休和尚録字本 一卷

妙心寺宗休和尚の詩集なり心集くまふ心又文のみの者述はるる西贊追悼及び當時諸侯の香語寺の依り
狂雲集 二巻
一休和尚の詩集なり和尚名は宗純別は狂雲子と号すなりは集の名なり

本朝一人一首 十巻 五本

萬治の初院林氏の撰なり大友皇子の詩あり中古世諸名家二百餘人の詩なり一首は撰いのせり禪僧の詩は醍醐羅山の詩はこれなりは撰のせりは撰の世系あり

本朝百人一詩 一巻

林道春の撰なり百人の詩あり二首は撰り別は百人一詩あり明暦元年台命の撰り道春春齋春徳は撰り其書は漢魏六朝唐宋の名家百人の詩と撰り定家の百人一首は撰り○辨疑書目録に曰予往年古代の書写本は本朝百人一詩の一本は其詩は道春の撰り板本は四本あり其書は編むは作者は補撰り書すなりは作者は撰り是とて識者の指南は撰り

本朝詩英

五卷 二本 野間三竹

上 天子より下 群臣より下 帝體にふくむるの詩集は弘文院於
氏竹河友元亦の序あり

惺窩文集

八卷 藤原肅

若くは肅子歟夫惺窩先生の詩文集なり先生は定家卿の苗裔
一々下冷泉の純の子なり播州細川に生じ幼くして親悟人
と号たり龍野の具東明の弟子となりて名を宗茂とす
後洛の相國寺に在りて薨首座と稱しその年六十歳のは佛教と
亦号しと号するものなり惺窩の名はけく二十歳のは佛教と
着破しけりちち儒門に入りて性理の書と讀明朝に入りて
啓しく風流となりて鬼界島に遷移す教集は目録
え名鬼の島根にありて洛北市原村に隱居しけり北
山山と号す○山書山集五卷八門人林道春これに編し後

集二卷八管玄同これに備す八門人の意の序林水喜の跋あり○
傳集の末八門人哀慟の詩附す又惺窩和歌集一冊附刻す
長肅道春等の贈答あり

同

十卷

此一本ハ惺窩先生の男冷泉羽林為景朝臣の編集す
り慶安四年 後光明帝御製の序あり○按ずるに後光明帝程朱
の学より志すけりてけりてけりて五言國々近世儒学發
興すはけりて名けりてものなり程朱の学を唱へてけりハ
地志に惺窩のたききけりてけりてけりてけりて梅すきき
りて惺窩文集は序制の序ありてけりてけりてけりてけり
てけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけり

羅山文集

百五十五卷 二本

林道春の詩文集なり 文集七十五卷 詩集七十五卷 文集目
録一卷 詩集目錄二卷 附録二卷 共百五十五卷なり男春齋春

徳之れ初編集す○幸島宗意の和板書籍考に曰羅山文集日本
第一の大部の文集なり朝鮮の俞秋潭日本之文章以羅山為
第一ののひハ謂をたつこころいふ古今獨歩のこゝろ
かり世上の詩文も取捨りしきよの評議らるるれり
の身もしてハ父の片言隻字も偏すのりるるり
凡例は文粹詩選後世博推者ト學士のあふれり以て其
心觀察すべきものなり

梅洞集

四十卷 林春信

弘文院學士の嫡子春信の詩文集なり 自撰詩集十卷 文集
十卷 續詩集二十卷 共々四十卷なり 竹洞及元の序あり○春信
一名懸字ハ孟著梅洞ト号一又勉亭ト稱す幼く神童詩材
の豊はり二十四歳一々卒す此集詩文も梅洞の自撰なり
續詩集ハ弟春常之れと編集す春常一名懸字ハ直民懸字
ト號す

讀耕全集

二十卷 林春徳

羅山の次子讀耕齋春徳の詩文集なり 春徳一名ハ靖字ハ彦復
ト號す

活野遺稿

十卷 那波道圓

那波道圓の詩文集なり 其長子祐生木菴守之れ初編集す
門人容軒際恕の序あり 活野播州郡路の人なり 初醫學術ハ半井
氏よりしハ醫學ヲ棄て惺窩の門に入程朱の學ヲ聞惺窩ハ人
の中よく其名よく顯るる者なり 肥後侯ハ仕へ老れハ紀藩ト進社
すの美未ニ行狀と附す其作者門人奥田松菴なり

老圃堂詩集

三卷 那波木菴

道圓の嗣子木菴の詩集なり 木菴名ハ守之字ハ元成父の業と
號す 紀藩ト仕ふ

覆樽集

三卷 石川文山

石川文山の詩集なり 文山名ハ四六山人ト号す 老後ハ龜山の麓

新書一覽

六十九

一乘寺村の隠して詩仙堂に營む

覆留集頭書 三卷 野間三竹

三竹字ハ子苞静軒と号す松永昌三の内人として文山の詩友

覆留全集 二十三卷 十四本

文山の詩文集より取りひ新編覆留集と号す 正集四巻詩四百首松のす文山自撰より松永昌三野間三竹の序より巻首二年譜とのす人見友元作し 續集十三巻文山内人石川半助これと偏十第一巻より第七巻まで詩七百餘首とのす詩の批評野間三竹より第八巻より第十巻までハ銘贊書牘等とのす巻首二野間三竹の序より目録と奉 附録三巻石克これ偏す詩仙堂記三竹作の文山墓誌銘同行状寺社のセリ弘文院学士林子の總序正集は巻首のセリ

草山集 三十卷 十本 沙門元改

城州深草瑞光寺の住持元改の詩文集なり 本集二十巻元改の自撰なり妙心寺大猷の序あり 續集十巻ハ門徒の手に出り建仁寺通憲長老作の行状と附す元改は江州彦根城主井伊氏よ仕へ石井平之丞元改といふ二十六年出家し法華律法持し瑞光寺に住し父母を孝行し石川文山陳元贊これと改て文四十巻あり示寂す元改が瑞光寺の日豊とゆふ俗儀よりい文雅のい寔に近世の名僧なり

谷口山詩集 六卷

此書ハ草山集二十巻中より諸體の詩より採りてしそのやうに〇ナリ別し元改のむすむあつたものとわがを採りて号す一むらうに陳元贊の贈答せしむる採りて元唱和集と号す二むらうにこれいふものむらうに

史館茗話 一卷 林春信

此書漢文として皇朝の詩話文論をあつたを号す弘文院林氏

新書一覽 和書部五

六十九

和書一覽

れきこ何以て近時の人...
第三卷 元和以後京師の藝文...
第四卷 東都の藝文...
第五卷 第三第四兩卷の備餘...
麗藻集 魚頭詩集等...
辛卯之春茅清絢跋 同年上木す

醫書類

大同類聚方

百卷

大同三年右衛門佐安信真負侍醫出雲廣負等勅撰奉...
全書八七...
神代之遺方...
第一藥名部 二十九種 和名...
良苦參 佐保比...
路藥 日向藥 大國藥 第二卷 長門藥 鏡藥 伊母藥
第三卷 出雲藥 於乃古呂藥 第四卷 七藥 中藥 第五卷

和書一覽

和書部五

七十一

醫

略抄

一卷

丹波雅忠

土佐藥 奇王藥 與波伊藥 已上十三方
 ○文治元年十一月典藥以丹波良康が跋るる醫方の秘傳をまじりて世に傳へし其の民他邦の藥に服して何れ其患を癒せんやんやんは土地の瘴氣の傳りて其土人なりは土宜に服す可からざるなり
 ○天子医官の勅一々類聚方を製せしむるの計如何なるか
 ○大内言定親の眞書といふ秘中の秘なりものあり
 ○此鈔本安永二年癸巳三月浪華葦葭葭堂主人木孔恭校訂して刊行す

永保元年侍医丹波雅忠の撰す卷首に序あり○書中多く千金方病源論を引り○方より方五十五あり諸方は方一々のやりの按ずる雅忠は日本の扁鵲と稱す○ハナハナ訓あり丹波雅忠は院の侍す○鹿國の後死篤疾を罹るる
 行く中約の請て雅忠は治せんと欲す氏部経信のとい高麗の後死の生死我本朝に開く何れ雅忠といて遠く了庵と赴く一人や大内の匡房は今一々回翰と製せしむ其界ふとく雙魚難逢鳳池之浪扁鵲堂入難林之雲乎○刊か寛政七年五月丹波元簡序同八年丙辰陽月丹波宿禰遠商侍医法眼快菴頼幹跋り是卷末に大日本史丹波雅忠の傳に附す
 寛政八年十二月刻

萬安方

寫本

五十卷

梶原性全

羅山文集に曰安倍眞負出雲廣負が大洞類聚方菅原峰嗣の金園方丹波雅忠康頼の医心方大医博士源輔仁の傳本草養生抄小野氏の集註大業經其後平性全の萬安方僅に世に存す余當く萬安方なりとて鹿苑相公の花押ありせし副本罕かりとく○東見記に曰梶原性全萬安方五十冊作し鹿苑院義滿の袖判あり建仁寺の大統菴にあり此医書なりと云き医玄治法印

群書一覽

和書部五

銀十枚を買取て性全書を頓醫鈔に引く官庫より頓の字
の訓は... 〇本朝医考は白根原性
全何の處の人... 〇世に會て鹿苑院義満公
仕へて医術を施し... 〇萬字方... 〇頓医方十卷
を撰す

頓 醫 鈔 寫 本

五十卷 同上

卷首題字に下は性全集の二字あり奥書に曰為救倉卒之病
聊抄藥方之要之病篇目之瘳美良之旨趣頗難近俗言廣尋古
賢之訓兼加今案之詞是則欲令見者易論也而已于時嘉元
第二曆南品上旬天書之性全〇又天文十八年己酉五月中旬十
三日守憲の奥書に曰〇按て此書四卷中及缺や尋やれ
せり... 〇今及入本世甫珍藏の古字中... 〇又按て黒川道祐
が本朝医考に頓医方十卷とありヤハ略やり... 〇十卷

葉葭堂所藏頓医鈔目錄

- 卷第一 五臟六腑虛熱寒熱證治 卷第二 諸風有諸中風七處灸
- 卷第三 五臟中風形 脚氣禁好物 秘藥 灸所 毒虫食集
- 卷第四 上 傷寒序言 卷第五 中 傷寒 傷風之秘穴
- 卷第六 下 傷寒 傷寒灸所 暑氣 卷第七 積聚 癥瘕 疰瘕 赤白痢病
- 卷第八 積聚 下 疰瘕 諸臟病 下痢 卷第九 傳死病 一灸
- 卷第九 傳死病 附 骨蒸 諸瘧 落葉 又傳死病一灸
- 卷第十 關 卷第十一 諸氣 五膈
- 卷第十二 諸氣 下 延壽丹 過山丹 秘方
- 卷第十三 嘔吐 霍乱 有婦人血塊 懷胎吐
- 卷第十四 五痔 并 水腫物 脹滿病 卷第十五 諸虛損 傳死病 虛損 灸所
- 卷第十六 諸淋 遺尿 諸小便 并 灸所 卷第十七 喘息 咳嗽 痰飲
- 卷第十八 癩疾 狂病 卷第十九 眼鼻耳 又一切目病

詳書一覽 和書部五

醫學書一覽

七十三

卷第二十 滿口舌喉唇 又齒喉重舌 次下治方

卷第二十一 疝氣 偏類

卷第二十三 吐血 嘔血 唾血 大小便血

又膏藥方

卷第二十六 黃疸

卷第二十八 二婦人中風以下諸病

卷第三十二 婦人懷妊之間諸病 女人汗血 吐血 尿血 下文乳汁暫留治方

卷第三十三 婦人臨產 漏胎 產後之諸病

卷第三十五 小兒疳積 諸風 驚癇 客忤 疳病 疔病 夜啼

卷第三十八 小兒五疳 疔瘡 積聚 丹毒 頭瘡 白毛 蓮根

卷第三十九 小兒雜病 疥癩 赤草 白草 穴草 等

卷第四十 諸病之禁好物

五種物 目藥 痢病藥 浮藥

卷第四十一 一舉全專 病人生死 十種物

卷第四十二 撮要 調人 鍼灸 完色 雜

卷第四十五 二秘方 二交接 等治

卷第四十七 諸藥 功能

卷第四十九 秘傳 石草藥 上下品事 諸藥 調茶 之事

卷第五十 養性 諸篇

捧心方 字本

二卷

卷首に漢字の序に云く我邦衛生の業は以て厥世に於ての惟、
の両家の、近世旁支、攔道、和家、其傳、
丹家の一脈、赤落、豐星の如く、爰に提、
家師承して其右、和家、其傳、
両方より萬安秘、
全より、
於我邦の群、

南進す其業まじく大なり其觀改全より四傳して人より長
淳いらば淳ハ淳居氏なり海峽路て以て世々傳授する然り才
徳の薫すことより以て其真の加わることなり医術の集成なり
いふもこれれ才徳は倫すこと蓋し此緒餘土直の我友中川公
俊逸穎悟の質が以て淳に依て學ぶ方論脈訣藥性鍼灸呪刺和
の書いよ聞て求め得て觀するものなり其表を承承しり
て迫り公近代医家者流學術内は尙声聞外は過韓氏肥瘠病
否の記知すこと濟世澤をこと痛念に愜然として方西
卷松選一冊に捧心より一病と下かり病論は脈證
りり載方よりいふこと動脈の取語は古方に
て私よ以て一待の措すこと蓋し此書の依鼻祖淨觀公萬安方は
準かり多し宝徳辛未仲秋日數月連序○又同年初冬中川子自
述の後序○入致と捧心方ハそれら中川子の編するものなり
中川子先古道淳公の術かり古道宏學燈記に以て中世一鳴

世之偉人也與務兄竹翁不相下也 鳳記○又文明壬辰夏季村菴
靈考以跋曰名曰捧心者處已以謙耳余乃謂是西施之捧心也非東
施之捧心也觀者念茲○以書し葦葭堂の所藏と借閱しこれ
ヲ録す

新增補遺捧心方 写本 十三卷 潤甫和尚

大文乃以南禅寺の潤甫和尚より中川子のいふ捧心方と諸
書を比較し薬の分量の異同増減等あり且數百方ヲ補
ひ收め十二卷に別は目錄一卷ヲ附す○卷首に諸方綱目と
題し書に引用すその書目ヲ奉
和刻方 陳師文 雙宗元 宋崇寧中所著也當日本堀川院康
和末長治始至今天文七戌成及四百二十餘年許洪増注著之
濟世方 嚴用和所撰也則室祐元年癸丑奉覽之當日本後深草
院建長五年至今天文七年戌成已得二百八十六年
醫方大成 孫允賢元延祐三年丙辰取者也當本朝花園院心五

和書目録 和書目録五

七十五

年后彦明附益之至今天文七戌戌年已得二百二十二年
袖珍方 明高祖洪武二十四乙亥年所著也當本朝後小松院應永二年壬
今天文七戌戌年得百四十八年
得效方 危亦樹元朝至元三年丁丑所編也當日本後醍醐天皇建武
四年至今天文七戌戌年已得二百二年
直指方 楊士鑑元景定五年所編也當日本龜山院文永五戌辰年壬
今天文七戌戌年二百七十四載
玉機微義 徐孝純劉宗厚明宣宗正統四己未年所著也當日本後花
園院永享十一年至今天文七戌戌年已得百年
醫書大全 熊宗之明宣宗成化三丁亥年所著也當日本後土御門
院應仁元丁亥年至今天文七戌戌年已得七十二年
奇效良方 七人良醫明宣宗成化六年庚寅所撰也當日本後土御
門院文明二年至今天文七戌戌年已得六十九年 方賢 揚文翰
宗武 趙璠 許觀 貴珍

婦人良方 陳良甫嘉熙元丁酉所著也當日本四條院嘉禎一年壬至
今天文七戌戌年已得三百載 熊宗之補遺著之
鐵氏小兒方 錢乙門人闕孝忠編集熊宗之類證明三統五年度申也
當本朝後花園院永享十二年至今天文七戌戌年已得九十九年
本方 丹家心傳中川公野著也則後花園院室德三年未歲也至
今天文七戌戌年已得六十九載
右十餘方藥方功能分量加減異同具勸錄之
十三要方 徐用和明宣宗成化十六庚子年所撰也當本朝後土御門
院文明十二年至今天文七戌戌年得五十九年
聖兒得效方 李景芳所著也明熹宗銀梓己正統甲子本朝後
花園院文安元年也今至天文七戌戌年得九十五年
卷一 四時之常脈 過不及之脈 痛鬱不治 諸風 中寒 中暑
中濕 傷寒 卷十一 小兒諸證
卷十二 別集 五臟內外所因 六根秘方 諸毒 雜方 九蟲論 蒼耳

詳書一覽 和書部五

説用藥可否 八卦配合 食忌 枕上記 養生秘訣 医貴二世

○致、曰前の南禅の海甫和尚平時暇日必養志黄雷公は前前後后
鵲長来君淳于意孫真人より以て今古歴代の名医を述べての群
書の萃れ拔集めく大成して十有二卷あり新増補遺捧心方
一号す禅餘の手記すその実絶世の珍貨なりと和合今す
かち亡す神足景盧首座一切成名遂て郷を還るの夜一語を
其志をへ描くことと需むく永禄第弍甲子仲冬念日十二位
建仁鐵史景秀○此書友人左藤恒安の珍藏すしころり借
閱すくこれなり

延壽類要

一卷

竹田昭慶

此書一卷五篇あり養生の論食物の性味考なりや康心年
中竹田法印の作なり此書は鯛の性冷なりとて何人の説なり
とのりる不審なりと板書籍考の海せり

神應經

一卷

此書本朝して成りし書なりすも卷首は和氣丹波の而医腫
物治す八慶の冬法術のすなりは以てこのあぐのこの此書は
明の第弍主仁宗の洪熙元年の頃成りし當時の王子の醫士劉瑾が
手抄經し書かり劉瑾が師は宍網先生陳會子ハ善同しつ
針灸は精し三人は其人の作は廣愛書十卷あり此神應經を
うけらるゝ要穴を抽出し病證をくもるなり卷はつめり
この本朝の神醫ハ和丹両家の八慶の冬法術卷首のせりなり
ハ朝鮮の韓繼禧ハ神應經の序もあり成化九年十月日本島山殿
より朝鮮の使者何より其時の副使沙門良心よりこの神應
經ハ朝鮮國王に獻じ日本に神醫和介氏丹波氏種痘治
すハ元のははれ因りくみ冬法と神應經の末附して板行
すあり今刊や彼冬法は卷首のすなり作者の
りし下成化九年日本後土門院の文明五年より成りし此時乃
公方ハ常徳院義尚公より義政公も在世なり島山殿ハ管領修理大

洋書一覽 和書部五

三十七

洋書一覽

百九

夫義統が、按ずる朝鮮國重州神應經の序、曰適有日本釋良
 心以神應經未獻華傳其本國神醫和介氏丹波氏治癰疽八元法
 其聖上嘉歎命以八元法付於神應經之末、錢梓廣布其以、永其傳
 云、成化十年十一月二十一日推忠定難郡戴純誠明亮經術佐理功臣
 祿大夫西平居臣韓繼禧謹序、○松下見林の曰今按ずる成化十明の
 憲宗純白上帝の年號成化九年、日本後土御門院の文明五年、當れ
 此時能登國の刺史畠山義統足利の老し、良心ハ信濃の國の人
 釋氏、一々、医かり、畠山のため、使わ奉ず、新續古今和歌集
 小良心法師河上落葉の歌り、蓋この人、

古今奇驗連珠方 写本 一卷 活民子
 卷首、活民子編、あやせり自序、白余諸方ハ歴觀す、用必、
 きこのり、用必、あやせりものり、あやせり、あやせり、あやせり、
 及、奇驗集、あやせり、連珠の如きもの編集、あやせり、以て古今
 奇驗連珠方、あやせり、あやせり、徳甲成十有一月、活民子序、

精英本草 写本 二卷 同上
 卷首、祖師禁日六神五畜大明日五入五惡五神八火、次第醫師三心
 病者二心のゆがの丁次、精英本草製使目錄、

卷之三 辰砂滑石の類八種 卷之四 鹽 卷之五 鹽土の類三種
 卷之六、卷之十一、草部 卷十二、卷十五、木部
 卷十六、卷十九、獸部 卷二十一、卷二十二、蟲部
 卷二十三、卷二十七、果部 朱殺部 卷二十八、菜部
 ○目錄の次、活民子自序、あやせり、精英本草歌詠集、あやせり、
 氣味切能、七絶、あやせり、此、精英本草歌詠集遺歌、あやせり、
 の、卷末、天文十八年己酉九月廿三日、あやせり、

精選秘方 写本 一卷 二本
 中風中寒、あやせり、小兒諸病、あやせり、病門、あやせり、薬方都合三
 百八十方、載の卷末、天文十八年己酉拾月下旬日三輪寺釋迦院
 源貞、あやせり、

和書部五
 百九

福田方

十二卷 沙門有林

卷之一 諸氣脾胃 卷之二 腹中諸病 卷之三 虛勞羸瘦
卷之四 風寒暑濕 卷之五 脚氣雜風 卷之六 傷寒瘡疾
卷之七 咳喘吐血 卷之八 前後兩疝 卷之九 婦人小兒
卷之十 孔瘡腫 卷之十一 卒痰熱藥 卷之十二 脈臟灸要

○此書本文自序にも片假字をもちて、才十卷の奥に有林福田方卷之十右此一巻者天文四年未月日長圓□筆とあり又他の卷に守憲書之とあり奥書もあり○序に曰初諸氣より終難病のいまで万病都て盡百病悉く了るなり此方何侍て人の極ふものハ苦輪の救済を修てなり彼薬を用て瘡を瘥すものハ福田の善苗を植てなり此もつらく斯義を沿て方名に述すは先商の尊卑博く城に於て利和の編素因り福田に蒙らるるに於ては萬葺堂聖藏の古本に依りてこれなり

袖中記秘方 二巻

第ニ巻 中風より諸氣に至り 第ニ巻 諸虚より小児に至り
○跋に曰暇日の次為竹軒に於て袖中記を撰りてこれなり此方何侍て人の極ふものハ苦輪の救済を修てなり彼薬を用て瘡を瘥すものハ福田の善苗を植てなり此もつらく斯義を沿て方名に述すは先商の尊卑博く城に於て利和の編素因り福田に蒙らるるに於ては萬葺堂聖藏の古本に依りてこれなり

草全日用奇妙集 一巻

妙薬の百七十二方何れも古字に於たり
慈濟軒方書 三巻

群書一覽
知書部五

百九

興福寺二禪師医方云々諸病の治法を記しこれ其のすゝめなり
 清朝人の書入りの友人木世庸翁云々此方書は九州島の某と和
 尚云々これ其のすゝめなり○りは云々す市の中は購ひ
 りくは賞他云々なり

啓遮集

八卷 翠竹軒道三
 道三乃方書なり天龍寺集彦代序は此書は親町院の啓遮集に入

切紙

一卷 同上
 四十門より方書なり医士抄学乃るなり

宜禁本草

二卷 同上
 藥性のよしあし道三撰の時の著述なり

天心記

二卷 同上
 天心乃はの配刺薄なり診視せりこの姓名何り云々あり

續天正記

一卷 同上
 先の天心記の續編なり

濟民記

三卷 同上
 病門のすゝめを多く藥方附す俗人のえやせんを記すなり

醫法明鑑

四卷 延壽院玄朔
 病門のすゝめ方論のよしを記す○此書刊本ハ医方明鑑の作

○今玄朔自筆の奥書有り本に就くれば云々○奥書ハ依門生
 某之求授與之元和癸亥季春中濟 延壽院玄朔印中ハ東井の字

延壽撮要

一卷 同上
 養生の要語あり云々なり此書後陽成院乃敬覽云々あり

云々あり○梅下云々朔は道三と稱す一後の子孫なり云々

群書一覽

和書部五

群書一覽

和書部五

百九

漢氏松古道三ノ稱す
食醫要編 一卷

僧元政
此書ハ深草の元政の作シテ僧家食物ノ性味ヲ考ヘテ

廣求經驗秘方 写本 一卷 向井玄升
眼目部 十二方 婦人部 二十方 口中部 廿方 瘡瘍部 六十二方

小兒部 廿五方 心腹部 二十方 二便部 廿方 損傷部 七方

癩癧部 五方 腋臭部 三方 四肢部 四方 毛髮部 四方

解毒部 三方 黃疸部 二方 耳鼻部 二方 五絶部 一方

雜病部 二方 頭痛部 附諸瘡 八方 痰喘部 附喉痺 五方

本朝醫考 三卷 黒川道祐
日本の名醫の傳ヲ考ヘテ

上卷 大己貴命ヲ始メ細川勝元ヲ終ル

中卷 和氣丹波兩流の人々上池院竹田吉田久志本壽命院

下卷 國史ノ久シク醫藥ノ故實 九散藥石の名 古代諸國

進年ノ雜藥 本朝医書目録 高麗牒狀等何ノナ

○寛文癸卯十二月曼院學士向陽林子の序ラレテ此書ヲ考ヘテ

本朝医書目録 治瘡記 一卷 大村直福撰

攝養要訣 二十卷 物部廣泉撰

金蘭方 五十卷 菅原岑嗣撰

藥經 和氣廣世撰

和書部五

醫心方

集註大素經

大同類聚方

難經問答

養生鈔

掌中方

倭名本草

萬安方

頌醫方

靈蘭集

突

艾茶養生記

本朝医考卷之上白建保二年二月四日源實朝卿病りて群臣こ

三十卷

三十卷

百卷

一卷

七卷

一卷

十卷

二卷

丹波康賴撰

小野菴根撰

安部真負撰

出雲廣負撰

源輔仁撰

同撰

同撰

梶原性全撰

同撰

細川勝元

釋深西

安

安驥集

假字としてや、療馬の書... 馬師皇才驥禁驥讀豊安誦

圓

鏡

療馬の書なり、序... 乃病也、く安驥集よりある、く不覺して、これと

梧

桐

これ療馬の書なり、序... 平仲國子孫、これ此道智恵とせん、字とある、

群書一覽

和書部五

八十二

百九

平仲國之安驥集六十卷の内、ふ所撰、講出、の、
そのく九唐日本違分明、く道具と違、十秋の月の、
い、務と以下、唯、中の、
は、

教訓類

管家遺識 写本

二卷

二十二條の中、重復三四條あり、仁君之要政者、以撫民為本、
リ、
之法、
上看、
犬田、
の、
お、
香烟、
以上、

寶語教

一卷

淨福寺惠空の説、曰此書、作者、

和書部五

ていへば此書ハ弘法大師の作なりと云ふ所の秘府論三教指帰
性靈集等ハ皆此書に依りて作られたるものなりと云ふべし
又文意を考へて見れば弘法大師の義理明瞭なるものなり
弘法の他ハ人々も亦これに依りて作られたるものなり
序ハ弘法大師の遺言ニ依りて作られたるものなり
兼筆之為往來也至若孫竹曰樂府詩歌為朗詠者卷影文繁
之此序ハ弘法大師の文安元年の作なりと云ふ所ハ實語教の世
の序ハ弘法大師の遺言ニ依りて作られたるものなり
又安藤為章ハ契沖河間梨行実
の序ハ弘法大師の遺言ニ依りて作られたるものなり
又浦五歳母間氏曰授百人一首和歌首自能記又亦試讀実
語教不日又記云々

童子教 一卷 釋安然

惠空の説くところ惠僧都元年京都より山門の法印と違は法華
經の秘註相傳せり時らりて一巻なりと云ふ所ハ世に實語童子の二教
と誰人の作りやと法印の作る童子教ハ五大院の安然和尚の製作と

との故ハ和尚の作る童子教ハ一巻なりと云ふ所の童子教ハ
あつては弘法大師の遺言ニ依りて作られたるものなり
又此書と製作と云ふ所の童子教ハ一巻なりと云ふ所の童子教ハ
の道理極まりて此書の作りと云ふ所の童子教ハ一巻なりと云ふ所の童子教ハ
心義即身成佛義私記なりと云ふ所の童子教ハ一巻なりと云ふ所の童子教ハ
又○作者の傳ハ元亨釋書卷之中曰釋安然ハ傳教大師の系族
カクシテ早く觀山の僧なり衣冠慈覺の室に居りて胎藏の法に
秘餘瀟々又花山の遍昭と云ふ所の童子教ハ一巻なりと云ふ所の童子教ハ
九經論ハ法祥一匠家ニ馳騁する所也述作する所の童子教ハ一巻なりと云ふ所の童子教ハ
又○作者の傳ハ元亨釋書卷之中曰釋安然ハ傳教大師の系族
カクシテ早く觀山の僧なり衣冠慈覺の室に居りて胎藏の法に
秘餘瀟々又花山の遍昭と云ふ所の童子教ハ一巻なりと云ふ所の童子教ハ
九經論ハ法祥一匠家ニ馳騁する所也述作する所の童子教ハ一巻なりと云ふ所の童子教ハ

和書部五

庭訓往來應永記雜筆富士之〇自德懋草徒然草茅百之十
五段資天徳言入道の子供の傳へる言入道もかめど
〜のぼり人知えたる言れども不同者不悉〜の五字のや
め紙すく一代乃字向むかひ〜今世まの取の〜
是傳此語安然和尚の童子教よ〜物別何の〜
人も我身のほめハせずた〜の〜人の〜
〜の〜の〜童子教よ〜書直下〜
て〜の〜の〜の〜の〜
今〜の〜の〜の〜
乃〜の〜の〜の〜
来芽二天の魔王の眷屬〜
〜の〜の〜の〜
報の〜の〜の〜

實語教童子教諺解 三卷 釋惠空

紀州淨福寺惠空和上十五歳の時作り流解し系片ながり
かり〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜
の二經舊來尚行〜
其書〜の五言〜
〜の紀州淨福寺覺賢惠空和上其先能州の人姓ハ木曾氏
部卿某の裔なり

和論語

十卷

卷首漢文と此書の起り〜
の別當清原良業勅諭放家〜
言音女の至言〜
記録〜
〜の〜
〜の〜

和書部五
百七

のりこの此次代撰者の次第とす

承久三年正月十八日 穀倉院清原良業 在判

建長四年八月十五日 大外記清原朝臣賴尚 在判

弘安十年三月廿一日 穀倉院別當清原良季 在判

元徳二年九月十九日 穀倉院別當正四位下清原良枝 在判

同御宇勅辨 四代侍讀清原朝臣宗尚 在判

文和四年十一月廿三日 主水清原朝臣良兼 在判

應永二年二月十五日 大膳大夫大外記清原宗季 在判

應永廿五年六月廿日 少納言大外記清原良賢 在判

文安二年八月朔日 少納言大外記清原賴季 在判

寛正六年十一月十九日 大外記清原宗業 在判

長亨二年七月廿九日 大外記清原良宣 在判

永正三年四月十三日 正三位行宮内卿清原宗賢 在判

天文十三年五月三日 從四位伊豫介大外記持賢 在判

同御宇勅辨

永禄十二年十二月廿日 少納言清原朝臣宣賢 在判

寛永五年八月十五日 細川兵部大輔源藤孝 在判

從四位上右中将源重秀 在判

洛東山隱士長肅子 在判

第一卷 神部

第二卷 人皇及親王部

第三卷 公卿部上

第四卷 同下

第五卷 武家部上

第六卷 同下

第七卷 貴女部

第八卷 釋子部上

第九卷 同中

第十卷 同下

○卷末に長瀬子丸の跋ありて寛文九年上末十

十訓抄 三卷十二本

撰者つゞりて、なごりて、の序を今何れにせよとて、昔今のよ

ぶに記したる、なごりて、の序を今何れにせよとて、昔今のよ

ぶに記したる、なごりて、の序を今何れにせよとて、昔今のよ

ぶに記したる、なごりて、の序を今何れにせよとて、昔今のよ

ぶに記したる、なごりて、の序を今何れにせよとて、昔今のよ

ぶに記したる、なごりて、の序を今何れにせよとて、昔今のよ

ぶに記したる、なごりて、の序を今何れにせよとて、昔今のよ

群書類一覽
和書類五

八十六
百九

女四書

女孝經 二卷 系中 一卷 唐の陳龜の妻鄭氏の作也

女論語 二卷 系中 漢の班固が妹曹大家が作し曹大家ハ曹

世依の妻なり

内訓 二卷 系中 一卷 明の太祖の皇后馬氏の作也

女誡 一卷 系中 曹大家の作也

此四部乃書が合せをのこれに譯し一なる内房の女子の以成
まうこれの自序より男もすかゝる学文より女子もすべしと云ふ
れ我々のなほひししく女の学文ハせぬと云ふことらえても
これだにさや所をすかすかしてさあはるるにさかたりの
所のもてあはれはるぬと云ふ此四書がやまゝにさかたりの
ろごりらん女のたにさ道松と云ふはれおとさきたる
けりものなりと云

大和小學

二卷 同上

大和小學

朱子シテの小学がけりるものなりけり此書ハ人ハ
一巻 五本 山崎闇齋

朱子シテの小学篇目のうち五教明倫敬身を門に於て教訓を施
すの法をのこす此書ハ闇齋五十一歳の時江府にありしに加藤君
の勸によりて傳へり非ハ儒教の垂るる徳にもあらず

婦人養草

五卷 十本 梅陽散人

女子の深窓よりかきとるべき事ハ家内をもち夫に
けりよめをきけ或は夫よと云ふは其のねふと云ふは比喩の
なりけりあけ婦人の調度朝言言語ののたまふ事と云ふは婦人
のけいよめありしやと云ふは自ら女義婦の事と云ふは漢古今乃
書に引りしハ近世に於てはけりしは外故実のあり
て婦女子の学問にさるるや。ハ漢文の教ありて之に
行す

解書一覽 和書部五

百七

和俗訓

大和俗訓

第一 第二 為学

第六 第七 躬行

第八 應接

八卷 五本

貝原篤信 心術 第五 衣服 言語

○篤信自序云、も漢字が、あつて、人、お、あつて、い、う、い、け、い、
と、い、ひ、て、い、は、し、る、が、今、は、俗、語、が、い、て、あ、つ、て、い、ひ、て、い、は、し、る、の、夫、婦、の、
愚、か、る、も、あ、つ、て、い、は、し、る、の、見、女、の、い、は、し、る、の、我、妻、の、い、は、し、る、の、
い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、
字、の、序、宝、永、五、年、五、冬、日、篤、信、の、自、序、は、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、
か、う、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、

童子訓

五卷

同上

初學訓

五卷

同上

家道訓

六卷

同上

五常訓

五卷

同上

新裕堂家訓

一卷

唐金梅野

家訓十五條附之、毎條、か、い、い、て、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、
久典、権、一、く、賞、す、べ、う、の、か、い、い、て、い、は、し、る、の、○、卷、首、よ、ふ、徳、二、年、七、月、西、山、散、
人、藤、氏、漢、字、の、序、又、宝、永、五、年、長、至、日、京、兆、伊、藤、長、胤、漢、字、の、序、
又、宝、永、己、丑、冬、北、村、可、昌、漢、字、序、又、宝、永、庚、寅、年、二、月、桃、溪、道、人、
若、森、漢、字、の、序、又、二、輪、希、賢、國、字、の、序、又、梅、野、國、字、の、自、序、は、い、
○、希、賢、の、序、は、唐、金、乃、何、が、家、法、十、五、條、は、い、い、て、い、は、し、る、の、
い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、
い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、

日本宝訓

一卷

天智 嵯峨 村上 花園 後小松 後宇多 後柏原 天白王 かの聖
語、か、あ、げ、次、日、本、忠、訓、の、標、一、く、鋪、足、武、智、麻、呂、の、推、
親、隆、継、等、の、ま、ご、と、く、敷、十、人、の、嘉、言、の、い、は、し、る、の、い、は、し、る、の、

和書部五

九冊

和書一覽

女世子範

和書一覽 卷末忠臣譜略附
二卷 大江資衡
學問大意 女官品階 讀書 歌入 和歌法式 賢女考
婦 女中學者 詩人 文人 歌人 書學 西事 香道 貝蓋
衣服 染色 布帛 器用 琴 双六 雜祭 七夕祭の國
和書一覽 明和五子刊行す

和書一覽 卷末忠臣譜略附
二卷 大江資衡
學問大意 女官品階 讀書 歌入 和歌法式 賢女考
婦 女中學者 詩人 文人 歌人 書學 西事 香道 貝蓋
衣服 染色 布帛 器用 琴 双六 雜祭 七夕祭の國
和書一覽 明和五子刊行す

釋書類

日本靈異記 寫本

三卷

沙門景戒

此書雄略帝の時より先仁帝の時よりその實善惡報
應のありけりとの御書なりとありけり其の作者景戒の著
帝の時の人なりといひけり○卷首より日本國現報善惡靈
異記 諸樂石京藥師寺沙門景戒録とありけり○自序より
原夫内經外書傳於日本而興始代凡有二時皆自百濟國
來之輕島豐明宮御寓譽言曰天皇代外書來之磯城島金刺
宮御宇欽明天皇代内典來也然乃學外之者詭於佛法諷
之者輕於外典愚痴之類壞於眞報匪信罪福深智之傳觀於
内外信惡因果之於是諸藥師寺沙門景戒親眼世人也
好而行利養貪財物過破石於拳鐵山以鹽鐵欲他分昔已
物甚抗頭於粉粟粒或食寺物生犢債或誑法僧現身

和書一覽

和書部五

九冊一

被^レ次或^レ拘^レ道^レ獲^レ行^レ而^レ現^レ得^レ驗^レ或^レ深^レ信^レ修^レ善^レ以^レ生^レ活^レ祐^レ善^レ惡^レ之^レ報^レ如^レ影
隨^レ形^レ苦^レ樂^レ之^レ響^レ如^レ應^レ各^レ音^レ之^レ響^レ起^レ自^レ臨^レ之^レ不^レ得^レ忍^レ後^レ居^レ心^レ以^レ之^レ
不^レ能^レ默^レ然^レ故^レ聊^レ注^レ側^レ聞^レ號^レ曰^レ日^レ本^レ國^レ現^レ報^レ善^レ惡^レ靈^レ異^レ記^レ作^レ上^レ中^レ下^レ
三^レ卷^レ以^レ流^レ季^レ葉^レ之^レ類^レ

上卷 合示善惡表 卅一條 中卷 合示善惡表緣 四十二條
下卷 合示善惡表緣 卅八條 此卷廿五條の半より下欄
○毎條の末に字訓を附す 宇阿米之志多 譽 保年 敬訓師の表

かん ○本の奥書に曰建保貳年甲戌六月 日酉刻計書白字了
又延宝八年歲次庚申同八月奉我 相公之命登全剛峯借出金
剛三昧院所藏之本字之者 彰考館識しつ真ちり

假名 日本靈異記 三卷

漢字のかわり假字をよみよみせり何人のおんがりのかみりす
かみりすは校すは前はれりし録りては次第かみりかみり
後かみりしはよみよみのかみり

説法明眼論

一卷

手雜章が和字雜白一擧の擧げりやう一河の流にひこもるん
こもる他はの流にひこもるんはひこもるんはひこもるん
演史もるんはひこもるんはひこもるんはひこもるん
諺草もるんはひこもるんはひこもるんはひこもるん
行せり時宗福寺より移りては法明眼論に依りて
右の辞此書の中よせたり明眼論ハ聖徳太子ノ作かりて
書目よあまも八百年来は以前は依りてはひこもるん
まもるんはひこもるんはひこもるんはひこもるん

宝物集

七卷

平康頼

平判官康頼鬼界島に流るり時途村に髪切られ名代性眼
影に依りてはひこもるんはひこもるんはひこもるん
化まり ○才一巻に依承元ノ入林の比薩摩に依りて
二年の春より舊里に帰るは境の釋迦堂より佛前にて

群書一覽 和言部五 九七 百九

つぎにこれに... 弘安二年... 弘安五年... 聖國... 鴨長明

發心集

三卷

鴨長明

長明入道の後... 自序... 座の右... 我の一念の發心... 此序扶業拾

三部假名鈔... 七卷... 向阿上人... 歸命木願抄... 西要抄... 父子相血... 勸化引接... 隆光謹誌... 萬漢... 九諸宗の知識の假名...

三部假名鈔

七卷

向阿上人

歸命木願抄... 西要抄... 父子相血... 勸化引接... 隆光謹誌... 萬漢... 九諸宗の知識の假名...

和書部五

百九

多くある其のつとむは河内院のつとむなりぬ依れりも
 王正書院のつとむなりぬ依れりも人の補いなり
 三つに解し小西のつとむなりぬ依れりも其集よりなりぬ
 才小町のつとむなりぬ依れりも其集の内人丸赤人家の
 集なりぬ依れりも其集のつとむなりぬ依れりも
 ハ彼此よりなりぬ依れりも其集のつとむなりぬ依れりも
 一やうのつとむなりぬ依れりも其集のつとむなりぬ依れりも

叢書要記 二卷

此書古字のつとむは叢書要記のつとむなりぬ依れりも
 上巻 傳教大師前御本のつとむ 十九院のつとむ 延暦寺縁起寺
 子宣旨 唐土天台山 文殊堂 経藏 神宮寺のつとむ
 下巻 釋迦堂 西塔院 慈惠大師 智證大師 弘法大

師 義真和尚のつとむ
 談峰縁起便蒙 二卷 沙門光榮

多武峰縁起

多武峰縁起のつとむは漢子に以てられぬ依れりも全文河内院のつとむなりぬ依れりも
 ○總論 卷末の總論のつとむは漢子に以てられぬ依れりも
 談峰の僧上法院永海文のつとむは其後花園院の御宇建久年中
 禪僧兼良流筆土佐光信圖す一説光茂圖 新縁起ハ文章向のつとむ
 筆者ハ寛文中後水尾院のつとむは因に流氏の堂上四十二人のつとむ
 書も亦勅のつとむは住吉如慶回愚慶園すの古縁起本二巻なり
 元禄十二年庚辰寺奉命のつとむは依り粟田のつとむは古縁起の修徳のつとむ
 二巻のつとむは四軸のつとむは第一章のつとむは始祖のつとむは第二章のつとむは敢取所
 隱のつとむは三軸のつとむは第七章のつとむは大臣のつとむは第八章のつとむは
 藤原朝臣のつとむは二軸のつとむは第十九章のつとむは巳酉のつとむは第二十八章のつとむは
 藤原朝臣のつとむは二軸のつとむは第二十九章のつとむは同日のつとむは卷末
 のつとむは古縁起のつとむは修補既のつとむは近衛園白基のつとむは公のつとむは
 依り古縁起のつとむは備ふ蓋天山のつとむは因に外題のつとむは近衛右府家のつとむは

釋書一覽 和書部五

淡筆○上法院永清八建久年中の人なり寺跡行業あり談峰
縁起談山略記聖靈講私記等あり○此書刊本宝永
年九月沙門湛堂序言保五年臘月沙門光栄跋あり

哲言頌寺縁記

二卷

奥書より以上六當寺建立以下佛の相好梁上の額小御堂の由縁
要約あり○記すものなり寛政四年壬子秋八月惠明謹識○書
圖八法橋東洲に於て撰す○書中長興宿祿記興元龍の半陶菓
事あり○此書寛政五年四月哲言頌寺藏板あり

法華譯和集

五卷

實海法師

法華經二十八品の意をあらわすに代りて撰集あり撰しむ
る乃ららばなりとて釋せり自序あり○按ずる此書は譯和
集と号し十卷あり○經文を撰しむるなり○法華
の經あり○書中、就くは法華の經あり○法華
譯和集と号し、彼今書星野山実海の撰し○友人江田世恭

か閱するは、扶桑拾遺集異本卷身二十三、譯和修歌集序、実
海法師と載らるるなり

略法華經和歌

四卷二本

權律師日朝

法華經西文の古歌あり○其の一首は、
當時の竹園及び官家より撰りし、要文八首の一首あり
享五、四月十五日豊長とあり

説法用歌集諺注

十卷 五本

第一卷より第五卷まで、釋教無常哀傷の一首あり○のす
第六卷、上宮太子の御歌あり、以八和尚の歌あり、また、法燈
の集りて其名せしむるなり、
第七卷より第九卷まで、法華經の一首あり、其の一首あり、
第十卷、諸經の一首、追加、袋草子、発心集、其餘あり、
乃らばなり

群書一覽 和書部五

九十二
百九

粟津義圭授心一々寛政四年刊行す古号宗意一々

釋教玉林和歌集 四卷 一本 先啓

每卷のくは浄土真宗玉林和歌集と題す代々撰集及び伝記の中より宮内乃意より歌どもは選ひしなり寛政九年九月洛陽淨林坊釋辨惠漢字の序より同十年の春刊行す此書の撰者先啓信濃國の人なり一序中より

管絃類

梁塵思案鈔

二卷 一條兼良公
上卷 神樂 庭燎 阿知女作法 樹物歌 大前張 小前張
下卷 催馬樂 律呂

奥は袖中抄松引く催馬樂の譜一條左大臣のつとめと律呂の歌なり
○此書の本名神樂催馬樂注秘鈔と云ふなり
○此書は成恩寺の住持が撰す
○御室書籍目録は梁塵秘抄二十卷後白河院秘抄と云ふなり
○兼好法師の序より此書は成恩寺の住持が撰す
○秘抄の序の曲の
○彼書今の世に傳りしは其書體が
○梁塵秘抄は神樂催馬樂東遊歌郵曲等あり

卷之上 十首
卷之中 十二首
卷之下 九首

拾葉集

写本

宴曲集 卷之上 十首

卷之上 十首

拾葉鈔

写本

卷之下 十首

邦曲撰要

写本

十八卷

沙弥明空

首卷六目錄の卷より其巻を夫當道の邦曲ハ知童の口よりい万人の耳よりえききたるいふも思老の撰也
曲す其軸十巻に所しめりて歌百の字叙すといふの
十餘首ハ愚作の外に十九れをらるの作者の名字叙すといふ
よすこれあはれハ貴命よりいふたはすといふも耳
よりいふたはすといふも都鄙のよとありいふたはすといふ
よもきといふたはすといふもいふたはすといふも

けりおほしきてはのりさるるがごとく
録すしつろ撰要目錄の巻よりけりていふたはすといふも
いふたはすといふも

宴曲集 五卷

目錄ナドよりいふたはすといふも略す

宴曲鈔 三卷

上よりいふたはすといふも

真曲抄 一卷

邦曲七首付新作三首

宛百集 一卷

邦曲十首

正安三年八月上旬之頃録之畢
沙弥明空 在首卷
○右の曲の中 花友三品作明空調曲 郭公 漸堂上人作明空調曲 龍田河津
冷泉武衛作明空調曲 源氏恋 武女房作明空調曲
者の名知あやう○次拾葉集目錄のよめいふたはすといふも
のよめいふたはすといふも
をよめいふたはすといふも
むいふたはすといふも

和書一覽

和書部五

百九

上卷 郵曲 十首
 下卷 郵律講式 隨中末加之 仍不牙不向
 九首
 文保三年二月之頃記之了 後醍醐天皇御宇
 亨徳三層孟夏中旬書之 三善常房
 右三帖者以飯尾彦彦左衛門尉三善常房朝臣自筆本合書子即
 時校合訖 貞治元年甲子仲秋天 前泉州司馬時元
 仁知日要錄 寫本 十二卷 藤原師長
 筆曲の書なり卷首に太政大臣從一位藤原朝臣師長撰とあり
 首卷 筆案譜法 結名 右手 左手
 卷第一 調子品 壹越調 沙陀調 平調 大食調等
 卷第二 催馬樂律 高砂 夏引 貫川 東屋 走井等
 卷第三 催馬樂下品歌 安名尊 新年 梅枝 琴人等
 卷第四 壹越調曲上 皇帝破陣樂 春宮轉 玉樹後庭花等
 卷第五 壹越調曲下 胡飲酒 河曲子 北庭樂等
 拾葉集 二卷 目錄上より下
 嘉元四年二月下旬之頃重加注之畢 沙弥明空 三善常房
 拾葉抄 一卷 調卷 後日出來之向直加入之 十一首
 別紙追加曲 一卷 郵曲十首
 玉林苑 二卷

上卷 郵曲 十首
 下卷 郵律講式 隨中末加之 仍不牙不向
 九首
 文保三年二月之頃記之了 後醍醐天皇御宇
 亨徳三層孟夏中旬書之 三善常房
 右三帖者以飯尾彦彦左衛門尉三善常房朝臣自筆本合書子即
 時校合訖 貞治元年甲子仲秋天 前泉州司馬時元
 仁知日要錄 寫本 十二卷 藤原師長
 筆曲の書なり卷首に太政大臣從一位藤原朝臣師長撰とあり
 首卷 筆案譜法 結名 右手 左手
 卷第一 調子品 壹越調 沙陀調 平調 大食調等
 卷第二 催馬樂律 高砂 夏引 貫川 東屋 走井等
 卷第三 催馬樂下品歌 安名尊 新年 梅枝 琴人等
 卷第四 壹越調曲上 皇帝破陣樂 春宮轉 玉樹後庭花等
 卷第五 壹越調曲下 胡飲酒 河曲子 北庭樂等

群書一覽
 和書部 五
 百九

卷第一

卷第六 平調曲 三基盤 皇聖樂 萬七の樂等

卷第七 大食調曲 散手破陣樂 武白樂 赤珠樂等

卷第八 雙調曲 和庭樂 柳花苑 黃鐘調曲 小和曲等

卷第九 盤涉調曲 獲合香 萬秋樂 秋風樂等

卷第十 同下

卷第十一 高麗曲上 新鳥獲 古鳥獲等

卷第十二 角調柱次第 箏卷弦口傳事等

○此書第一卷より第十一卷まで八曲調の譜本ありて其の名一三三四五六

七八九十斗為中位以下ありて○按て二三位藤原師長公の御書ありて三

月五日任元内大臣同日一月一日叙後一位治承三年十一月十七日解官其後於尾

張國出家四十二年三月歸京子妙音院建久二年七月十九日薨五十五

所著有二五要録三三三要略仁智要録仁智要略

五重序 寫本 一卷 菅結乃とて演主の作りとありて五重ハ毛皮肉骨髓の五

鳴鳳集

寫本

一卷

作者代りしりて大正樂園 教名白虎通 説文潘岳笙譜

の況古善吹笙者 渡本朝事 笙箏葉笛 高麗笛調子 琵琶

和琴 赤琴箏等の調 撥合名 東遊 端歌名 催馬樂 樂器

名物 吹笙次第 始習笙事 行物事 十種供養抄陀事

朗詠事 御遊事 秘事 調子音取事のりありて

體源鈔

寫本

二十卷

豊原統秋

豊原の姓松字乃旁 體源と名づけりて○奥書に豊原

統秋判に積磔集に豊原樂人統秋豊筑後四位下

のりてけりて酒承院の御範より又歌直の御手かりて

院實隆公の高弟かりて風流ののりて隠者かりて雪玉歩に統

秋身まゝりてけりての十首ありて

和書部五

百九

久世よりよき一板おもひけりとのこと
 ○昔傳拾葉十曰人自七十三代の天子堀河院に於てその書は
 序文なり此帝諸道の所勤也此書は其の書は其の書は其の書は
 ろいし其の書は其の書は其の書は其の書は其の書は其の書は
 らと一其の書は其の書は其の書は其の書は其の書は其の書は
 違者豊原朝臣統秋といふもの乱世に於て其の書は其の書は
 久く樂器の来歴を明して一家に付するは其の書は其の書は
 其書より其の書は其の書は其の書は其の書は其の書は其の書は
 書翰より又統秋朝臣懐明といふ歌十首は其の書は其の書は
 音に置るべきの書は其の書は其の書は其の書は其の書は其の書は

胡琴教録

俗人の中より其の書は其の書は其の書は其の書は其の書は
 琵琶の書より其の書は其の書は其の書は其の書は其の書は
 卷之上 教学琵琶 取換 差指 換音 諸調子品

十二律調

樂曲 催馬樂 師傳相承等十五條
 卷之下 琵琶彈時用意 晴所作 樂屋琵琶 彈玄上用意

琵琶宝物 琵琶名所等二十四條
 ○每卷目錄あり毎條裏書に奥にあり其の書は其の書は其の書は
 之人有其憚仍以女性令書之間僻字等多得其意也

樂譜要録

十五卷
 横笛譜 卷之八より卷之十まで 鳳笙譜
 卷之十一より卷之十三まで 箏譜 卷之十四 琵琶譜

○卷末に後四位下遠江守泰宿禰昌名撰といふあり○奥書に其の書は其の書は
 甲辰年春二月淨了 同十月巳年夏六月批校 又之右に管二
 絃譜依家之傳本遷之内有疑者疑曲暫闕之以之方集會議定
 之止可追加者也

和書部五

百九

琴今曲抄

二卷

此書ハ八橋流築紫箏十三組外ノ歌曲二組ト補ヒ一流ノ曲ハ四ノ付
唱歌ノ註釋ハくくとしてものし卷首ハ十三組ノ註釋ハくくとしてものし
らハ元禄シテ二月作者ノ自序ニ依リ一箏ハ松檢校傳弟ノ
と云リ

上卷 菜菔 梅枝 心伝 天下太平 薄雪 雪のり

雲乃上 以上七組何表組より

下卷 薄衣 桐壺 須磨 四季曲 扇曲 雲井曲 松飛 若組

以上十五組ノ心伝七の九月の眞書

換箏推譜集

三卷

安村檢校改正のひびき一裏表中許等のひびき決定ありて
上卷 表組 ふさ 梅えん 天下太平 雪乃上
六段の油
中卷 裏組 雲乃上 扇 桐壺 四季曲 八段の油

乱輪古 中許 ナメ 未の松 空之松 四季の福士 雲井

下卷 三曲 四季曲 扇の曲 雲井曲 新組 羽衣若菜 思

川 橋姫 新雲井弄齋 飛燕曲 宝曆四年刻

琴今組唱歌集

一卷

安永年中八橋流の佳川檢校ハ組補いし曲ハ
表裏中許奥許の次第ハ
裏島檢校久米園勾當相と
表組 ふさ 梅えん 天下太平 心伝 扇 雲乃上 表組
附物 七のり 扇のり 務り

裏組 雲乃上 扇 桐壺 四季曲 扇のり

中許 須磨 扇のり 四季の友 扇のり 十三段の

奥許三曲 四季扇 雲井 扇曲 吳竹 夕空 八重垣

奥許三曲 四季扇 雲井 扇曲 吳竹 夕空 八重垣

和書部五

百九

飛梅 箏曲大意抄

安永六年六月刊

山田松黒

此書ハ箏曲の表裏中心の二曲等ありやと云ふ物ありしに、
其のなほ、其の譜ありしに、
其のなほ、其の譜ありしに、

卷之一 表 落 梅 枝 必 作 下 天下太平 落 方 雪 日 辰 二 段

卷之二 裏 櫻 上 落 衣 相 づ ば 八 段 乱

卷之三 中 許 渡 磨 明 石 未 乃 ね 空 憚 堂 井 弁 齋 九 段 七 段

卷之四 奥 組 四季 扇 雪 井 五 段 鶴 羽 衣 若 葉 思 川

卷之五 橋 檢 投 新 曲 四季 富士 曲 二 長 曲 雪 月 花 曲 三 玉 川

玉 川 浮 舟 四季 恋 曲

卷之六 奥 書 箏 琴 瑟 阮 和 琴 等 の 和 漢 の 證 文 琴 製 作 の 柱 爪 寸 法 の 図 琴 臺 箏 袋 の 圖

秋 霧 形 松 清 形 箏 寸 法 の 圖 琴 臺 箏 袋 の 圖

四季源氏乙乃曲の目唱歌 安永六年山田松黒自序 同日大澤山人漢文の跋あり

謡抄

二十卷

百番の謡の作り作者は、
高砂朝長 井筒 鞍馬天狗 百萬 鐵輪 兼平 芭蕉 道成寺 龍田 呂服
女郎花 松風 安宅 昭君 志賀 大原 幸 関寺 小町 天鼓 妙願寺
頂羽 花筐 浮舟 春日 龍神 遊行 柳 蟻通 東岸 居士 富士 大鼓
野宮 葵上 白樂天 木曾 熊谷 通小町 安達 原 道明寺 杜若 揚貴
紅葉狩 善知鳥 難波 清経 檜垣 小協 鶴飼 松虫 三井寺
鷗 鶴小町 幸都 渡小町 當麻 玉井 賴政 千手 重衡 阿漕 自然 居士
羽衣 実盛 小督 善界 班女 矢阜 鴨 短冊 忠度 夕顔 俊寛 雲林院
葛城 藤戸 江口 西行 櫻 柏崎 老松 通盛 軒 菊梅 景清 櫻川
三輪 船橋 采女 姨 桑 槿 鷗 鷺 羽 盛久 定家 鶴 二人 静
安 籠 大鼓 佛原 錦木 融 養老 八鳥 源氏 供養 山 婆

新書一覽

角田川 放生川 田村 梅枝 殺生石 張良 已上百番
諷 増抄 十二卷 加藤 盤齋

自序云云... 諷 増抄 十二卷 加藤 盤齋
○首卷 大意 凡の起 諷乃字諷の字は凡 催了あのみ
申樂の申樂を修りて 能作者目錄の○の書に於て
ふ乃諷の目錄
高砂 盛久 江口 大系 寺子 ありき 寺子 光 礼政 東北 一百万 自凡
居士 老松 通盛 今 重衡 二人 静 殺生石 已上十五番
法 音抄 五卷 惠空 和尚

此書二十二番の註記... 卷之二 實盛 軍大鼓

諷 曲拾葉抄 二十卷 惠南
卷之一 源氏 供養 葉平 檜 千手 蟻通 卷之二 實盛 軍大鼓
三井寺 津都 蓮小町 卷之三 自然 居士 志賀 江口 春日 龍神
卷之四 柏崎 山海 葉葉 當麻 卷之五 百萬 清経 野宮
東岸 居士 普 領寺 心徳 四年 五月 刻

卷首凡例云云 此諷曲拾葉抄は花咲と世の老の一葉軒大井貞忠撰
一と云ふは其の抄に... 四十餘の... 学考... の... 但... 當流觀世の

新書一覽

百七

中世以後の本文... 拾葉抄の抄世の... 本編... 錦本... 寛保元年辛酉... 秋日空華... 七十二羽... 高砂老松右近白隠玉井弓八幡難波白樂天兵服蟻通賀原竹生島忠度兼平定盛春老紅葉狩田村志賀賴以井筒木曾屋島定家芭蕉江口葛城楊貴妃手部夕顔大徳寺西行櫻朝顔十寿雪林院小住誓乳寺杜若遊行柳羽衣埃捨檜恒鴨形小町幸都塚小町関寺小町采女佛系野宮班女軒端梅之人静松風湯谷藤戸天鼓梅枝富美枝道明寺郎那字宅船赤屋船橋通小町盛久女郎花二姑東岸居士自住居士殺生石放下傍之輪龍田當麻海人

融三井寺玉葛櫻川浮舟角田川百萬柏崎輝丸俊寛景清阿曾治氏供奉鵜飼善和鳥花笠鞍馬天狗鶴善界大會春日龍神葵上鉄輪安達原熊坂鉢木狸惣計百一番初彦の清書佛書等引く注釈せん明和九年四月刻

本示良土産

二巻

此書今春觀世兩流の謠本の文句... 乃新の能... 上卷二十二番 高砂... 中卷二十三番 竹生島... 道明寺... 下卷 二十六番 白樂天... 放生川...

前の小次郎が他の遊り柳のまも付き入るきのりり下下同同下下のの臆おそ断た々々強強くく依依々々定定人人のの共共つつかかるる此此元元傳傳書書植植字字八八一一本本ああ又又表表紙紙のの様様様様かからら異異本本とと類類せせり

[Faded handwritten text, likely bleed-through or ghosting from the reverse side of the page.]

			八 九 四 九	和 書 門
	一 二 三			
六 冊	七 架	函	號	類

庫 文 閣 內			
		八 九 四 九	和 書
三 函	一 架	六 冊	類